



読んだらきっと好きになる。

大林組？

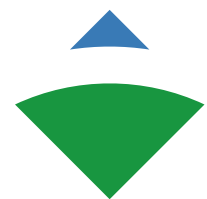


 **MAKE BEYOND**
つくるを拓く

株式会社大林組 〒108-8502 東京都港区港南2-15-2 品川インターシティB棟
TEL 03-5769-1241 (人事部) URL <https://www.obayashi.co.jp/recruit/shinsotsu/>



0から1を生み出す使命。



OBAYASHI

大林組が建設した東京スカイツリー®

大空にそびえる、その高さは634m。

どのようにしてつくるのか、想像できるだろうか。

建設は、多くの人、ものが結集し、

同じ時を共有するなかで進んでいく。

そこには幾多の喜びがある一方、苦労や困難もある。

私たちが完成を目指し、つくり続ける理由は、

高度な技術と確かな実績によって社会に貢献する使命があるから。

ゼネコン（General Contractor）の使命、

それは空間に新たな価値を生み出すこと。

私たちは今日もこの広い世界を彩る、

新たな1をつくり続けている。



contents

特集

大林組？

006 **OBAYASHI BRILLIANT WORDS**
若手社員が、仕事に心を動かされた言葉の数々を紹介

008 **HISTORY OF OBAYASHI**
創業から時代をリードしてきた大林組の歴史

010 **Only one** ～PROJECT STORY 1、2～
技術力とチームワークで、
難工事に挑む2つのプロジェクトストーリー

014 **CROSS TALK 5**
職種の異なる社員が、大林組の社風や魅力について語る

016 **OBAYASHIのホンネ**
先輩社員がホンネで語る入社前と入社後のギャップとは

018 **Business**
目指す将来像と4つの事業

019 **Technology**
「技術の大林」の今後の技術戦略

020 **職種紹介**
大きなものづくりを支える一つひとつの職種に迫る

034 **GLOBAL OBAYASHI**
海外プロジェクトと海外駐在社員の仕事紹介

036 **データで見るOBAYASHI**
さまざまな角度から見る大林組の特徴

大林組？

「大林組」ってどんな会社？

何をつくっているの？

どんな仕事があるの？

どういう人が働いているの？

そんな「？」をひもとく

おおばやしのおはなし。





変わらぬ想い

大林組の第3代社長であり、
名誉会長の大林芳郎が残した言葉があります。
それは、時代が変わっても、変わらない
私たちの想いでもあります。



建設にたずさわる者こそ
夢を見、未来を語り、
文化を育むべき。
建設とは、本来そういう
行為であるはずだ。

できているものを売ると違って、
できあがってはじめて得意先に
受け取ってもらい、
途中の過程も見てもらえるところに
建設業の楽しさがあり、
そこに苦しみもある。
改良していく努力という
苦しみもあるんだが、
そこにぼくは生きがいを感じるんだ。

会社のパワーの源は、
社員の皆さんと、その士気です。
我われ建設業は、人が原点です。
人間的な温かさや
人をもっとも大事にする
会社という伝統は、
大切に守っていききたいと
考えています。

愛をもって仕事をしなさい。
愛とは「目配り」「気配り」「心配り」です。

入社1年目の現場で上司から言われ、仕事に向き合う際の意識が変わりました。
(設備職)



守破離。

はじめは前例を忠実に守り、実践する。
次に自分なりに考え、前例を破る。
最後に全く新しい手法で課題に取り組み、
既存の手法から離れる。
新入社員の時に上司から言われ、
今でも自分の中の指針になっています。
(事務職)



「この現場」ではなく 「俺の現場」。

現場の所長からの一言。
「“俺の現場”と思えなくなった時は
すぐに相談してほしい」と言われ、
その男気に惚れました。
(建築職)



段取り8割、 仕事2割。

新入社員時代、指導してくれた上司に
言われ、印象に残っています。
入社10年目を迎えた今でも、
仕事をするうえで大切にしている
言葉です。(機電職)



1本の木では何もできなくても、
大きな林になれば何でもできる。
それが大林だ。

現場で人手が足りないと感じた時、先輩から言われて
背筋が伸びる思いがしました。
(建築職)



大林組の仕事は「楽しい」。
でも決して「楽」ではない。

入社前にリクルーターから聞いた言葉。
やりがいには苦労や努力が伴うものだと思え、
入社への覚悟が固まりました。
(建築職)

今すぐ帰ってあげなさい！

妻が里帰り出産中、何気ない会話の中で
「今日が予定日なんですよ」と言った私に
対する上司の言葉。妻はもちろん、
義理の両親からも「なんて優しい会社なの」と
感動され“人の大林”を実感しました。
(事務職)



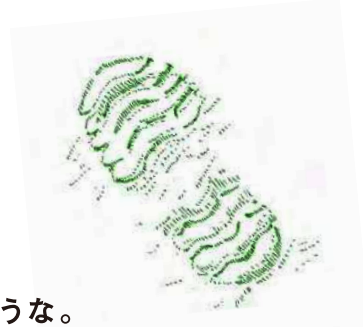
どんなに厳しい条件でも、
あの所長について行くんや。

予算や工期が厳しい現場で職長が発した一言。
自分も職人さんからこんなふう慕われる
現場監督になりたいと強く思いました。
(建築職)



終わらない現場はない。

入社1年目、仕事が行き詰まり、
先が見えず悩んでいる時に上司から言われた一言です。
気持ちが楽になり、前向きに仕事に向き合うことができました。
今でもその言葉を胸に頑張っています。
(土木職)



「できない」と言うな。
「どうすればできるのか」を考えろ。

困難な作業状況を説明した際、現場の上司に言われた一言。
できないからと言って立ち止まるのではなく、知恵と勇気をもって
課題解決への一歩を踏み出そうと思えるようになりました。(建築職)

大林組をカタチづくる名言・格言

OBAYASHI BRILLIANT WORDS

さまざまな現場で、上司、先輩から受け継がれてきた言葉があります。
ここでは入社1年目～10年目の若手社員が実際に心を動かされた言葉を紹介します。

自分のファンを作れ。

入社時のオリエンテーションで先輩社員からもらったメッセージ。
与えられた仕事をただこなすのではなく、
相手の心をつかむ仕事をしようと決意しました。
(設備職)



人の大林。

社内はもちろん、現場でも頻繁に耳にする言葉。
「スーパーゼネコンのなかでも大林組の仕事が一番、
一緒にものづくりをしていると感じられる」と職人さんに
言ってもらえるのは、現場で話し合いながら最善の方法を
選択していく大林組の姿勢が伝わっている証だと感じます。
(土木職)

自分の家族をヘルメットなしで
歩かせるつもりで考えなさい。

「絶対に安全だと言い切れる計画を立てろ、
中途半端な仕事はするな」
安全通路の計画をする際に所長から言われ、
身の引き締まる思いがしました。
(建築職)



HISTORY OF OBAYASHI

時代と世の中を先見する卓越した洞察力と是非を明確にわきまえた強い克己心、さらに進取果敢に仕事に挑み続ける情熱がそこにあった。

時代の先駆者大林組はこうして誕生した

株式会社大林組を設立

1914年以降の第1次世界大戦は戦火を拡大し続け、経済は「大戦景気」に沸き、各種工業が興り、設備投資の急増は建設業界に繁栄をもたらしていた。社員も200名を超え、

さらなる近代化を目指して1918年12月1日、合資会社大林組を吸収する形で「株式会社大林組」を設立。組織体制を整え、工事機械を業界に先駆けて充実させていった大林組はこの時、業界の代表的地位を確立する。

大林組本店ビル（4代目）

大林組の創業と成長の時代

創業者・大林芳五郎（初名は由五郎）は、19歳のおり、それまでの呉服商から土木建築請負業へ転身。さらに志を得て1892年1月25日、大阪に土木建築請負業「大林店」を開業する。時に27歳であった。「大林店」芳五郎は常に標榜していた「施工入念」、「責任遂行」、「誠実勤勉」、「期限厳守」、「安価提供」を実践することで信頼を獲得し、わずか数年で大阪築港工事に参加するなど、数々の大規模工事を受注していった。1904年、店名を「大林組」と改め、

東京に拠点を開設。東京中央停車場（現東京駅）を受注するなど、飛躍的な発展を重ねていく。

土木建築請負業「大林店」

総合建設産業への変容と業務体制の強化



大林組技術研究所（当時）



東京大林ビル（現オーク東京ビル）



大阪大林ビル（現北浜NEXUBUILD）

太平洋戦争終戦後は、当社をはじめとする建設会社が戦後復興の担い手としての役割を果たすなか、国内の建設技術の進歩は戦争によって中断され、著しい立ち遅れをみせていた。業界復興の命題を掲げ、1965年、当社は東京清瀬に技術研究所を新築開設。施工技術の革新と先進的な工事機械の率先した導入によって、高度経済成長期のなかで、より多様化・大型化する工事の受注に結びつけていった。時代の潮流に応じて、1970年に東京本社を設置し首都圏での事業を強化。そして海外拠点の拡充を進めるなかで、現地での事業強化を進めるため、インドネシア、タイ、アメリカに現地法人を設立する。国内外で大林組の存在を確固たるものとし、一層の発展をしていく。

経営の多角化と生産性を備えた技術革新

2012年、中期経営計画において、基幹事業である国内建設・開発事業の収益力の維持・強化はもとより、新たな事業領域への進出による収益基盤の多様化を掲げる。その一環として2014年テクノ事業創成本部を新設し、大林組の技術とノウハウを活かす新たな事業展開を本格的にスタートさせた。より強固な経営基盤を構築し、事業環境の変動にも備えるため、当社事業の柱である建設事業、開発事業及び新領域事業において、それぞれの事業領域の深化、拡大及びグローバル化を進めている。



現在の本社（品川インターシティ）

三箴（さんしん）～創業以来、受け継がれてきた精神～

良く、^{やす}く、速い

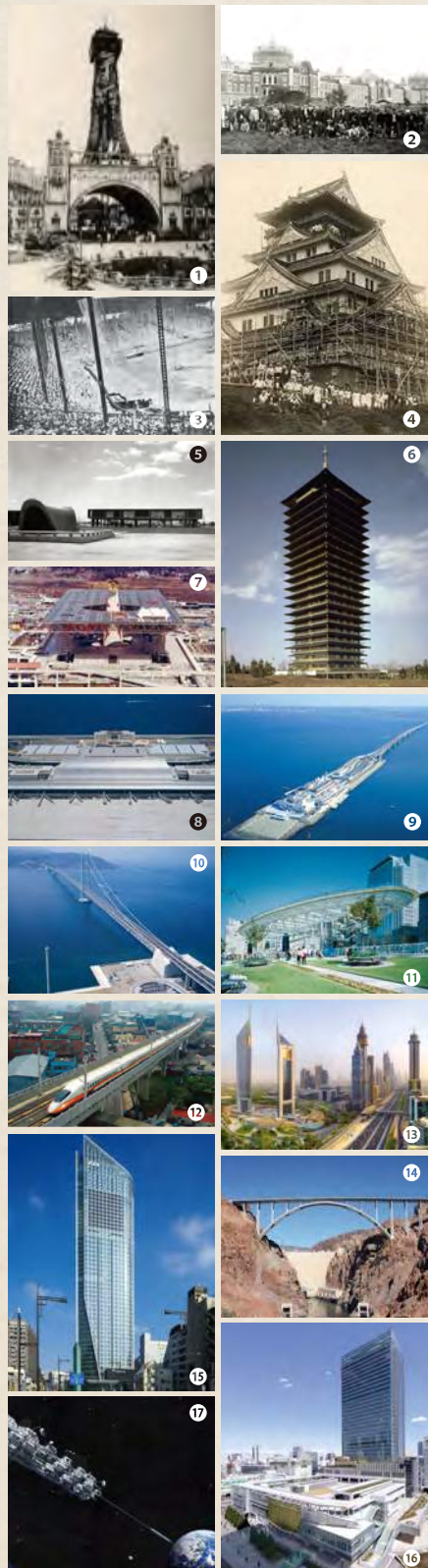
1935年、現場の経営近代化を図るため「現場従業員指針」を刊行。その巻頭に明記された「良く 良く 速い」の言辭は、三つの戒めの意「三箴」と呼ばれ、大林組のものづくりにおける姿勢として、今なお大切に受け継いでいる。



現場従業員指針

時代を築きあげてきた大林組の歴史

- 1892 大阪市で土木建築請負業「大林店」創業
- 1904 店名を「大林組」と定める
- 1909 合資会社大林組設立 建設業者として最も早い法人化であった
- 1912 東洋一の高さを誇った「初代通天閣」①
- 1914 鉄骨を用いた建築として日本最大だった「東京中央停車場（現：東京駅）駅舎」②
- 1918 株式会社大林組創立
- 1924 日本初の大規模多目的野球場「阪神甲子園球場」③
- 1931 市民の願いが込められた「大阪城天守閣」の再建 ④
- 1955 平和への想いを未来へつなぐ「広島平和記念資料館・記念館」⑤
- 1964 初の海外駐在員事務所をタイ・バンコクに開設
- 1965 国内の超高層ビルのさきがけ「ホテルエンパイア」⑥
技術研究所を東京・清瀬に開設
- 1970 東京本社を設置
当時史上最大規模を誇った「日本万国博覧会」（主にパビリオン建設）⑦
- 1979 日本の建設会社初の米国本土の公共工事受注
「サンフランシスコ市下水道工事（工区延長 2,284m）」
- 1994 日本初の24時間運用可能な空港「関西国際空港」⑧
- 1997 海底道路トンネルとしては世界最長「東京湾アクアライン」⑨
- 1998 世界一長いつり橋「明石海峡大橋（神戸側アンカレージ）」⑩
- 2002 宇宙船のような形が特徴、名古屋のシンボル「オアシス21」⑪
- 2003 六本木に誕生したランドマーク「六本木ヒルズ森タワー」
- 2006 国民2,000万人の夢を乗せて走る「台湾新幹線」⑫
- 2010 東京本社を本社及び東京本店に組織改正、
登記上の本店所在地を大阪市から東京都港区に変更
- 2011 世界最長の全自動無人運転鉄道システム「ドバイメトロ」⑬
- 2012 世界一の高さを誇る自立式電波塔「東京スカイツリー®」
北米最長のコンクリートアーチ橋「コロラドリバー橋」⑭
- 2014 超高層ビルの下を地下トンネルが貫く「虎ノ門ヒルズ森タワー」⑮
- 2016 国内有数の乗降客数を誇る新宿駅の南口に誕生した超高層複合ビルと
日本最大の高速バスターミナル「JR新宿ミライナタワー、バスタ新宿」⑯
- 2020 JR山手線半世紀ぶりの新駅「高輪ゲートウェイ駅」
- 2021 創業130年の節目に新ブランドビジョン「MAKE BEYOND つくるを拓く」を公開
- 2XXX 遂に舞台は地球を飛び出す「宇宙エレベーター」⑰





PROJECT
STORY 1

ダイヤゲート
池袋
新築工事



西武鉄道池袋線の線路を跨いでそびえ立つ、オフィスビル「ダイヤゲート池袋」。将来的には豊島区が構想中の池袋駅東西連絡通路との接続が予定されており、池袋エリアをつなぐ新たなランドマークとなることが期待されている。竣工が間近に迫った2018年の暮れ、プロジェクト担当者に工事にかける想いを聞いた。

比類なき、
営業線路を跨ぐ駅ビル

「この敷地で、本当に延床面積5万㎡もの建物が建つのだろうか」

初めてプロジェクトの現場を訪れた際、所長の石川郁男は率直に思った。目の前で解体工事が行われていたのは、西武鉄道池袋線の線路脇に建っていた地上8階建ての西武鉄道旧本社ビル。石川に課せられたミッションは、このビルの建て替え工事を成功へと導くことだ。石川が驚いたのは、新築ビルが西武鉄道池袋線の線路上を跨ぐ計画になっていたこと。そうすることで敷地面積は、従来の1.7倍へと大幅に拡大される。

同じ驚きを、副所長に任命された三栖健一も感じていた。

「大抵のプロジェクトでは、最初に現場に立った時に工事のストーリーの大筋が見えます。しかし、今回に限ってはイメージが完結しませんでした。特徴的な構造計画、鉄道やガード脇での建物づくり、線路下で同時進行するトンネル工事、搬入動線も乏しいなど、課題が山ほどありました」(三栖)

石川と三栖は、もともと本社生産技術部で数々の工事計画を担当してきた。その経験をもってしても「あまりにもハードルが多いと感じた」と口をそろえて言う。しかしだ

「通常は超高層ビルをつくる際、工期短縮や地下工事の騒音対策などを目的に用いられます。この工事における逆打ち工法の主目的は、1階床を先に完成させることで、前面道路と一体となった動線や資材置き場を確保することです」(三栖)

こうして工事がスタート。線路上空での工事は制約が厳しいため、実際に作業ができるのは、き電停止後のわずか2時間半ほどだ。現場では少しでも時間短縮できるよう、前もってクレーンに鉄骨を吊るした状態で待機、き電停止と同時に作業を開始するなど、毎日計画的に作業を積み重ね、約半年をかけて線路上空の2階人工地盤を完成させた。

※き電停止：架線(電車線)に電気が供給されている区間を一時停止すること。

安全第一の鉄道近接工事
検証を重ね、万全の体制を

もうひとつ、今回の工事で逆打ち工法を選択するメリットがあった。それは鉄道近接工事であったことに関係する。「今回の工事では、鉄道のすぐ脇を15m掘ります。一般の工事では山留壁を設け仮設の切梁材で支えますが、逆打ち工法を用いれば、本設の床で山留壁をより確実に支えることができます。鉄道の脇を掘削する今回の工事においては、間違いない工法だと確認していました」(石川)

逆打ち工法の採用は、本プロジェクトの最大の特徴であり、鉄道を跨ぐビルを実現させる大きな一手となった。またこのビルの特徴と一言え、斬新な外観も見逃せない。低層部分は巨大なV字型の柱が、上層階には「外殻耐震ブレース」と呼ばれる斜め格子が配置されている。鉄道の運行ダイヤグラムをイメージしてつくられたブレースは、デザイン性だけでなく、建物の耐震性能上、重要な役割を担う。

「工事の1年前には、鉄骨の仕口(部材交点)の実大試験を行いました。これは当社の技術研究所で行い、構造計画の裏付けとなる重要な作業でした」(三栖)

梁と柱が接合する仕口部分のモデルをいくつか制作し、実大試験を行った。結果、設計上、想定されていた強度が実証された。こうした大掛かりな実証実験を行いながら、確かなものづくりが実現できるのも、技術研究所を保有する大林組ならではの大きな強みだ。

Only one

池袋に新たなランドマークを 線路を跨ぐ高層ビル建設に挑む



からといって2人は決して悲観的にはなっていなかった。

「営業している線路を跨ぐ高層ビル建設は希少なケース。完成すれば池袋の街全体にインパクトを与えられるだけでなく、駅ビルの新たな在り方を提案できる」(石川)

「こういう難しい計画に出会うチャンスはそれほどなく、実は内心：燃えました」(三栖)

前代未聞の挑戦に向け、プロジェクトが動き始めた。

逆打ち工法を採用して
工事ヤードを確保

プロジェクトを推進していく際、事務所には不可欠なのが事務担当者の存在だ。事務所の設営から経理処理、安全書類の対応などを通して、石川や三栖をはじめ、技術職のメンバーがプロジェクトに集中できる環境を整える。着工当時入社4年目の武田仁史もそのひとりだ。本社勤務を経て、今回が初の現場配属となる。

「事務は直接ものづくりに関わるわけではありませんが、目指すゴールは同じ。プロジェクトの成功に向けて、自分にできる最善のサポートを心がけています」

そのひとつがICT環境の整備だ。パソコンだけでなく、今では施工管理に欠かせないツールとなったタブレット端末やスマートフォンなどの注文や管理を行う一つ、現場に役立つアプリを所内に展開。技術職のメンバーが工事に集中し、最大限のパフォーマンスを発揮できるよう万全の環境を整えた。

その頃、石川と三栖は施工計画や工法についての検討を始めていた。最初に2人が直面した課題は、資材の搬入だ。延床面積5万㎡もの建物をつくるとなれば、必然的に莫大な量の資材が必要となる。ところが西側敷地は10m幅、東側敷地に至ってはわずか6m幅、しかも行き止まりの道路で大型車両による資材の搬入を行わなければならない。動線はあまりにも貧弱で、搬入できたとしても資材置き場がない状況だった。そこで石川と三栖が採用したのが「逆打ち工法」だ。一般的に、建物は一番下からつくる「順打ち工法」で、地下から地上へと、順番に階を重ねていく。それに対し、「逆打ち工法」では始めに1階の床をつくり、その後には地下1階・地下2階と逆に構築していく。

プロジェクトを裏で支える
事務は、女房役

石川や三栖をはじめ、技術職員たちがさまざまな課題に立ち向かうなか、武田も迅速かつ細やかな対応で現場を支えていた。夜勤が多い期間は仮眠室の手配をしたり、資材の搬入が難しければ敷地外に資材置き場を手配するための事務手続きを行ったりと臨機応変に調整。そんな武田について、石川は



「誰からも信頼される、事務所の女房役。」だと評する。

「事務所のことについては所長からも頼ってもらえる。役職や職種に関係なく、事務所の全員とコミュニケーションがとれるのは、事務の役得だと感じています」(武田)

最初は課題ばかりだった現場も、気づけば竣工間近。

「現場は一期一会。このプロジェクトが終われば、再び同じメンバーが仕事で集うことはない。建物づくりを通して時をともにしてきたメンバーとの今を楽しみ、大切にしたい。チームワークが最大の武器、とプロジェクトのたびに感じます」(三栖)

西武鉄道最大のターミナル駅であり、副都心としても発展が期待される池袋駅。大林組ならではの技術力と団結力から生まれる新たなランドマークは、池袋エリアの発展や地域活性化にも大きく貢献することだろう。



石川 郁男 Ikuro Ishikawa
1981年入社。理工学部建築学科卒。本プロジェクト所長。豊富な現場経験で培われた知識・スキルを活かしながら、現場をけん引。

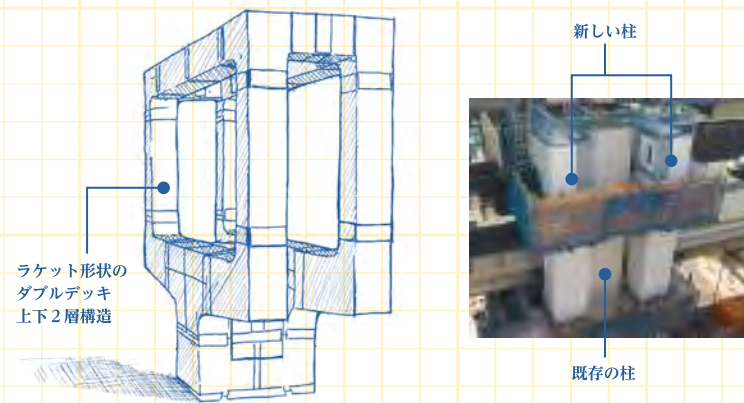


三栖 健一 Kenichi Misu
1995年入社。工学研究科建築学専攻修了。副所長として石川を支えながら、柔軟な発想力と的確な判断力でプロジェクトを推進していく。



武田 仁史 Hitoshi Takeda
2012年入社。商学部商学科卒。事務担当。本社での勤務を経て、2015年から本プロジェクトの事務担当に。

※ 2本の新しい柱を施工してから、
間に挟まれた古い柱を撤去する橋脚撤去工法



PROJECT
STORY 2

板橋・熊野町
ジャンクション
間改良工事

交通量の多い首都高速道路のなかでも、特に渋滞が著しく、構造的にも複雑な板橋JCT（ジャンクション）と熊野町JCT。この状況を改善するため、これまで不可能と思われてきたダブルデッキ2層構造の高速道路を拡幅する「大プロジェクト」が発足した。日本初の工法で難工事に挑んだ、闘いの日々迫る。

橋脚撤去工法を用い 交通への影響を最小限に

首都圏の大動脈である首都高速道路中央環状線。なかでも板橋JCTと熊野町JCT区間は、中央環状線と5号池袋線が交差する都内有数の渋滞ポイントだ。首都高の要でありながら、短い区間で合流・分流が発生する複雑な構造のため、慢性的な渋滞に悩まされていた。

この状況を打開すべく、大林組に課せられたのが現状の3車線から4車線へ道路を拡幅する工事だ。問題は板橋JCTと熊野町JCTがラケット形状のダブルデッキ上下2層構造であること。

「下層を4車線に拡幅するには、上層を支える柱が支障となります。そのため、通行止めを行いながら在来工法でつくり替えるしか方法はないと考えられていました」

そう語るのは現場代理人として着工時から携わっていた兼丸隆裕。しかし、工事を行ううえで発注者が最優先事項として挙げていたのは、交通影響の最小化と安全性の確保だった。それを実現するには新しい工法に挑戦するしかない」と兼丸は感じた。

開気のせいか、ブロックを切断するために橋脚に巻き付けたワイヤーが切れる事態が起こる。

「本番になると、作業員も、ブロックを早く切りたい」という気持ちで空回りするんじゃないかな。無意識のうちに、練習よりも強く引つ張ってしまうんです（丈達）

もちろん、ワイヤーが切れることは想定範囲内だった。現場を監視していた兼丸は、注意深く時間の経過を見ながら、あらゆる可能性を考えていた。

「工事は時間との闘いです。一般交通の安全を考えると、切り始めてから中途半端なところで工事を止めるわけにはいきませんから。状況に応じて、間に合わないかと判断したら速やかに別の対策を打つ準備もしていました（兼丸）

一方、所長の岡には「できる限り、この日うちにブロックの切断工事を行いたい」という思いがあった。

「中止という選択もありましたが、ここで止めてしまうと、翌日以降のチームワークやモチベーションに影響が出る恐れがありました。時間的にはまだ余裕がありましたから、初日に予定通りの工程をやり遂げようという気持ちで臨んでいました」（岡）

作業員に対して「あせる必要はない」と励ましの声をかけながら、プロジェクトメンバーや発注者などの関係者が見守るなか、再度切断にチャレンジすることになった。その結果、橋脚は見事に切断。ブロックが撤出されると現場に歓声が上がった。

こうして1回目の工程を予定通り終えたメンバーは、その後も順調に橋脚を撤去。最終的には2班に分かれて2カ所同時に撤去できるまでに成長していった。

Only one

日本初工法で首都圏の大動脈を刷新 実現不可能と思われた難工事に挑む

撮影協力：首都高速道路(株)

社内で議論を重ねた末、所長の岡重洋が選択したのは、新たなジャッキシステムを搭載した特殊トレーラーによる撤去工法の開発だ。

「この工法であれば、施工時間や施工空間など制約条件が非常に厳しいなかでも、必要な交通流を確保しながら工事を行うことができます。最優先事項である、交通影響の最小化と安全性の確保が可能だと確信しました（岡）

国内でも前例のない技術や工法を用いるため、当初工事の難易度は未知数だった。しかし概要を知った機械担当工事長の丈達康太は、難しさと同時にチャンスも感じていた。

技術力とチームワークがあれば 「できない工事」はない

高度な技術力と並んで、今回の難工事のポイントになったのが大林組ならではのチームワークだ。岡が現場でこだわっていることがある。それは作業員全員の名前を覚えることだ。今回のように150人を超える大型プロジェクトでも、現場では職員と作業員が互いに名前呼び合う光景が広がる。

「職員と作業員が立場に関係なく、人と人として向き合うこと。そうでなければ現場の一体感やパフォーマンスが上がらず、仕事も面白くなりません。仕事である以上、しんどいことも多々ありますが、そこにやりがいを見出せれば、走り続けることは難しくありません（岡）

現場の最前線を指揮した丈達も、今回の挑戦を通して改めてチームワークの重要性を痛感した。「どれだけ高い技術力があっても、大林組の力だけでは工事は完成しません。お客様の理解や協力会社の存在があって、初めて完遂できるのだと再確認しました（丈達）

さらに今回のプロジェクトは研究分野での意義も大きく、2017年には土木学会賞技術開発賞を受賞。その後も各方面から論文の発表を期待されている。

「今回の改築工事では、新規工事よりも高い技術力が問われたことは間違いありません。知恵と技術を集結すれば、できない工事はないと実感しました（兼丸）

既存構造物の大型リニューアル工事の先駆けとなった今回のプロジェクト。これから迎える日本の大規模更新時代に向け、ひとつの指標をつくった功績と業界への影響力は計り知れない。

夜間のわずか4時間で 20トンの橋脚撤去に挑む

本プロジェクトにおける最難関のひとつが、高速道路下層の上空部分にある既存橋脚を切断し、取り除く作業だ。工事が許されたのは交通量が最も少ない土日の深夜のみ。夜間の2車線規制のなか、わずか4時間で20トンもの橋脚ブロックを切断・撤去しなければならぬ。そこで丈達はまず、分刻みのタイムスケジュールを作成。現場で作業にあたる50人全員に配布した。

「全体の流れを熟知することで、自分の担当業務だけでなく、前後の仕事も理解できるようになる。すると、あうんの呼吸が生まれるんです」（丈達）

ミーティングでは施工手順を図解したステツプ図を多用。全員が同じイメージを描けるまで、コミュニケーションを繰り返し行った。

本番独特の緊張感のなか、 いよいよブロック撤去へ

そして迎えた撤去初日。プロジェクトメンバーは、この3カ月間で数え切れないほどの訓練を重ねていた。それでも本番になると、現場には独特の緊張感が漂っていた。そんないつもと異なる雰



撤去工事完成後の打ち上げ



岡 重洋 Shigehiro Oka

1993年入社。工学研究科交通土木専攻修了。所長として俯瞰的な視点で現場を統率。力強いリーダーシップで高難易度の工事を指揮した。



兼丸 隆裕 Takahiro Kanemaru

1996年入社。工学部建設工学科卒。現場代理人及び土木担当工事長。対外的な窓口として、プロジェクト全体のマネジメントを担当。

※工事現場の取締りのほか、工事の施工及び契約関係事務に関する一切の事項を処理する現場における請負者の代理人



丈達 康太 Kota Jotatsu

2007年中途入社。理工学部機械工学科卒。機械担当工事長として、日本初となる工法の検討やそれに伴う機械の開発・考案に従事した。



CROSS TALK 5

大林組には、どのような魅力や社風、仕事のやりがいがあるのでしょうか？そこで今回、所属部門も入社年度も異なる現役社員5人がクロストークを展開、入社のきっかけから印象的なエピソード、今後のキャリアプランにいたるまで建築・土木・機電・設備・事務、それぞれの視点からざっくばらんに語ってもらいました。

大林組ならではの技術力を受け継ぎながら 自分たちの世代だからこそできるものづくりを

「日本一のものづくり」が
入社のきっかけに

――まずはみなさんが大林組に入社されたきっかけを教えてください。

廣瀬 私は大学3年生の時に参加したインターンシップがきっかけです。工事現場で職長さんと職員がきちんと対話をしながら工程を決めていく様子を見て、プロフェッショナルとしてお互いに認め合いながら働ける環境に惹かれました。

松尾 私も現場見学で職人さんが活き活きと楽しそうに働く姿に魅力を感じました。実際に一緒に働くようになってからも、その印象は変わっていません。

佐生 私の場合、事務職志望だったのですが、せっかくなら社会貢献やビッグプロジェクトに携わりたいという想いから建設業界を目指しました。そのなかで、大林組は私が興味を抱いていた海外事業に注力している印象があったため、入社を決めました。

中嶋 私もプロジェクトの内容や実績は企業選びの決め手になりました。私が就職活動をした年、ちょうど当社施工の東京スカイツリーが完成したので、「大林組に入って、自分も日本一のものづくりに携わりたい」と思ったことを覚えています。

江副 私は機械工学科出身なので、機電職の立場で大きなものづくりに

貢献したいと思っていました。大林組は自社で工事機械の整備開発拠点があり、機電部門が独立していることから工法開発にも力を入れていると感じ、迷わず第1志望にしました。

職種の垣根を越えた
チームとしての一体感が魅力

――どんなところに大林組の魅力を感じますか？

廣瀬 ひとりとして同じキャリアの職員はおらず、それぞれ異なる現場で異なる知識・スキルを身につけています。そのため、「これについては、あの人が聞こう」など各分野にエキスパートがいる点は魅力ですね。

佐生 部門や職種を越えた職員の連携の良さもポイントです。正直、入社当初は事務職は技術職よりも立場が弱いのかと思っていたのですが、実際にはそんな雰囲気は全然なくて、さまざまな部門が協働していくなかで意見の対立はあるにせよ、ひとつのチームとしてプロジェクトを推進していく一体感が味わえます。

江副 比較的若いうちから責任ある仕事を任せてもらえる点魅力ですね。自分の知識量を1年前と比べても全然違いますし、最新技術を習得していくスピード感もあります。

松尾 年次に関係なく、新しいことに

の感動は忘れられません。それまで自分の「作業場」だった空間が、ひとつのオフィスビルになったんだなど。

松尾 私は2年目に経験した道路工事現場が印象に残っています。当時は東北の震災復興で多くの職員が応援に行っていた影響などもあり、事務所の人数が少ないなか、資材の段取りや協力会社との工程打ち合わせ、現場で行う仮土留の設計をほぼひとりで行っていました。竣工後に一般車両が走行する様子を見た時には込み上げてくるものがありました。その後、自分も車で走ってみただけですが、一瞬で通り過ぎてしまふので何往復もした記憶があります笑。

廣瀬 現場がその後どうなっているかは気になりますよね。私も自分が工事に携わったショッピングモールに、空調がちゃんと効いているか確認に訪れたことがあります笑。他社がつくった建物でも、中に入るといろいろなところに、つい目がいってしまいます。

中嶋 「どうやってつくったんだろう」と想像して、良いアイデアがあれば参考にしたり現場に活かしたりしますよね。

自分の意見をもって
現場を活性化させてほしい

――今後のキャリアプランについて教えてください。

佐生 私は入社当初から希望している

チャレンジする機会が多いですし、自分の意見が採用される可能性も高いです。そういう意味では自分の考えをもつことが非常に求められます。

中嶋 あとは福利厚生がしっかりと整っているほか、労働組合のレクリエーションでは普段仕事では接点がない人とも交流できます。仕事のやりがいはもちろん、リフレッシュの面でも充実していると感じます。

「思うようにやってみる」
上司の言葉が後押しに

――入社からこれまでを振り返って、ご自身の中で正念場だったと感じたことはありますか？

佐生 九州事務センターの熊本地区を担当していた2016年、熊本地震に被災した時のことです。土曜日の深夜に大きな地震があり、月曜日には各支店から応援に駆けつけてくれました。事務係として応援職員の分も含め、近隣の方に駐車場を借りたり、寝る場所を確保したりと大変でしたが、技術職だけでなく、事務職の応援職員も来てくれた時には本当に心強かったですし、大林組の初動対応のすごさを目の当たりにしました。

中嶋 私は2年目の現場が印象的です。1年目で一通り工事の流れを把握

江副 大林組って、家族みたいな会社だなと思います。仕事である以上、厳しいことは多々ありますが、とても温かいし、フォロー体制も整っている。若いうちから新しいことに挑戦したい人、どんどん成長していきたいという人にはぴったりの会社です。

松尾 現地一品生産なので同じ現場はひとつとしてありません。新しいプロジェクトでは、年次や経験に関係なく全員にとって初めての現場です。そのなかで従来の工法や考えを踏襲するだけでなく、自分の意見をもつて、現場が活性化するようなアイデアをどんどん提案してくれる人と一緒に働きたいですね。

佐生 事務職に関して言うと、縁の下の力持ちというイメージがあるかもしれませんが、それだけでなく、状況に応じて自分が前に出ることも必要です。会社としても新たな事業を開拓しているの、チャレンジ精神旺盛な人を求めています。

中嶋 最初はわからないことが多いし、失敗もするけれど、そこから学べることばたくさんあります。わからないことやできないことにぶつかっても、逃げずに目の前の課題と向き合える強いハートと責任感のある人と一緒に働きたいですね。

廣瀬 建設業界って仮囲いの中で仕事をしているのでクロージなイメージがあるかもしれませんが、実際には風通しが良く、人と人とのつながりで仕事が進んでいきます。そこに惹かれる人は、ぜひ私たちと一緒に働きましょう。



プロフィール（写真左から）

廣瀬 夏美 Natsumi Hirose

建築職2014年入社。理工学部建築学科卒。入社後、事務所ビル、集合住宅などの建築現場で施工管理を経験後、現在は東京本店建築事業部生産企画部生産企画課に在籍。

松尾 陽介 Yosuke Matsuo

土木職2011年入社。理工学研究科土木工学専攻修了。鉄道や道路、原子力発電所などさまざまな現場を経験後、現在は東京本店品川駅改良工事事務所に在籍。

江副 誉典 Takahiro Eno

機電職2008年入社。工学部機械工学科卒。建築現場の施工管理、東京機械工場での施工支援などを経て、現在は本社機械部技術企画課に在籍。

中嶋 龍一 Ryuchi Nakajima

設備職2013年入社。工学研究科地球環境デザイン学専攻修了。建築現場の施工管理、設計部、建築本部本部長室などを経て、現在は東京本店キヤノンCOI上里工事事務所に在籍。

佐生 怜人 Raito Saaho

事務職2010年入社。法学部法律学科卒。九州支店総務部総務課・経理課、九州事務センターなどを経て、現在は本社財務部海外財務課に在籍。

※組織・役職は取材当時のものです。



OBAYASHI の ホンネ

さまざまな部署の先輩社員たちに、
入社後に「思っていた会社と違う！」と
感じたことを聞き取り調査。
あなたが抱いている大林組のイメージも、
もしかしたら変わるかも!?

現場は人と人との
コミュニケーションで
成り立っているのだと
感じた。

男性・建築職

入社して
驚いたのは、
お酒を飲まない人が
意外と多いこと。

男性・建築職

入社前は指示するだけなのかな？
とと思っていましたが、
実際は自分たちも結構動きます。
近くで見ていると職人さんが
教えてくれるし、
彼らとの距離感が思っていた
以上に近かったです。

男性・建築職

振替休日や
現場全休など、
働き方改革の
推進が予想より
進んでいました。

男性・建築職

驚いたのはひとつの
プロジェクトに関わる
人の多さ。
発注者から作業員まで、
さまざまな人との
繋がりができます。

男性・建築職

意外と優しい人が
多いです。
時に優しすぎる
ほどですね。

男性・建築職

ダイナミックな
現場の一つひとつが
地道な作業で
成り立っていること、
女性がみんな活き活きと
働いていること。

男性・建築職

入社前は
職人気質の社風かと
思っていたのですが、
実際には家族的な
雰囲気でした。

男性・機電職

想像以上にしんどい！
でも、
建物が完成した
時の達成感も
想像以上！でした。

女性・建築職

働き方改革の推進で、
労働時間は入社前の
イメージより少ないです。
ただ、その分
より効率的に
業務を遂行することが
求められます。

男性・建築職

上司より先に
帰れないといった
風習はなく、
風通しが
とてもいい。

男性・建築職

働く前は「構造物」を
相手にするイメージ
でしたが、
実際の仕事は
「人」を相手にする
ことが大半です。

男性・建築職

やんちゃな人や体育会、
優等生タイプ、
ちょっと変わった人など
社員のキャラクターの
バランスが良い。

男性・事務職

管理をする立場でも
時には泥くさい仕事か
必要なこと、
人を惹きつける魅力や
会話が何よりも
大事であることを
感じました。

男性・建築職

「穏やかでぼわーんとした
人が多いな」
と思っていたのですが、
いざ仕事になると
キリッ！と眼光が鋭く
なるような、硬軟併せ持つ
人が多い会社でした。

男性・土木職

ビッグなものづくりの
会社ですが、
日々の仕事は非常に
繊細である
ということ。

男性・事務職

実際に働いてみると
一人ひとり自分の
ポリシーを持って、
周りとはぶつかりながら
誠実に仕事に取り組んでいる。
仕事以外の交流では、
明るくアットホーム。

男性・機電職

建設業は「3K」と
言われているけれど、
本社の常設部門でも現場でも
それをまったく感じません。
特に人。「人に優しい大林」
と耳にしていた通りでした。

女性・事務職

最初は残業ばかりという
イメージでしたが、定時に
帰ることも多くあります。
思ったより
飲み会も少ないですね。
お陰でプライベートも
充実しています。

男性・事務職

本社の常設部門が
現場へのリスペクトを
常に忘れず、
想像以上に現場を
大切にしている
会社だと思った。

男性・事務職

休日も
職員や職長さんと
交流があること。
私はよくゴルフに
行きます。

女性・建築職

トンネルなどの大きな
構造物づくりは
数cm単位の世界だと
思っていたのですが、
実際は数mm単位の
世界で驚きました。

女性・土木職

こんなに
体を動かす
仕事だったのか！

男性・土木職

普段はイカツイ
感じでも、
自分の仕事を
きちんとこなし、
誰かが困っていたら
率先して助ける。

男性・設備職

意外と関西弁が
少ない。

男性・設備職

雰囲気の良い
イメージは
もともとありましたが、
想像以上に人柄の
良い人が多くて
逆に驚きます。

男性・事務職

「とてつもなく忙しくて、
自分の時間なんか
取れない」と
思っていたのですが、
趣味の時間も取れるし、
勉強する時間も取れます。
要はやり方次第です。

男性・建築職

想像と違って
設備の立場が
弱くなかった。

男性・設備職

Technology

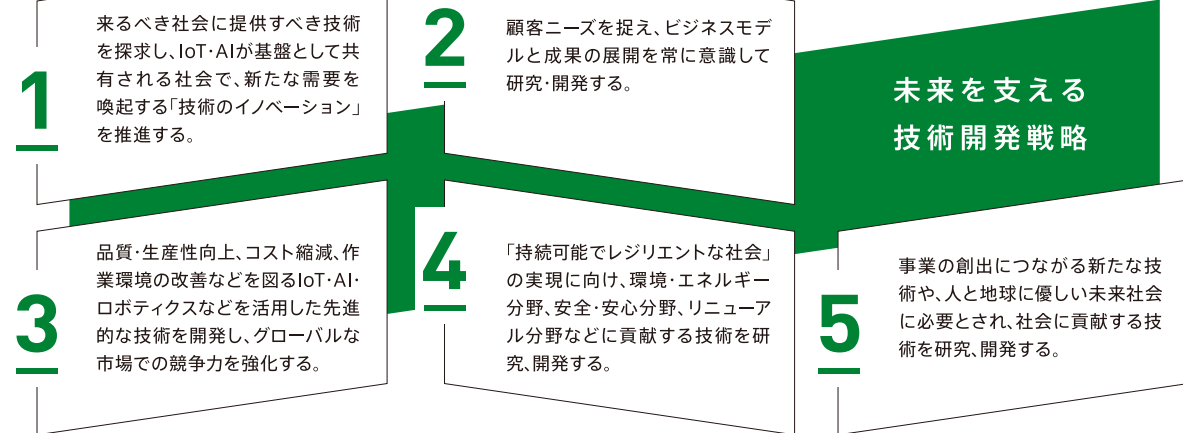
持続可能な社会の実現を目指す技術開発への取り組み

安心して快適に暮らせる社会の実現を目指し、大林組は新しい技術の開発に取り組んでいます。

多様化する社会の課題を解決するためには、今ある技術を磨き続けるとともに、

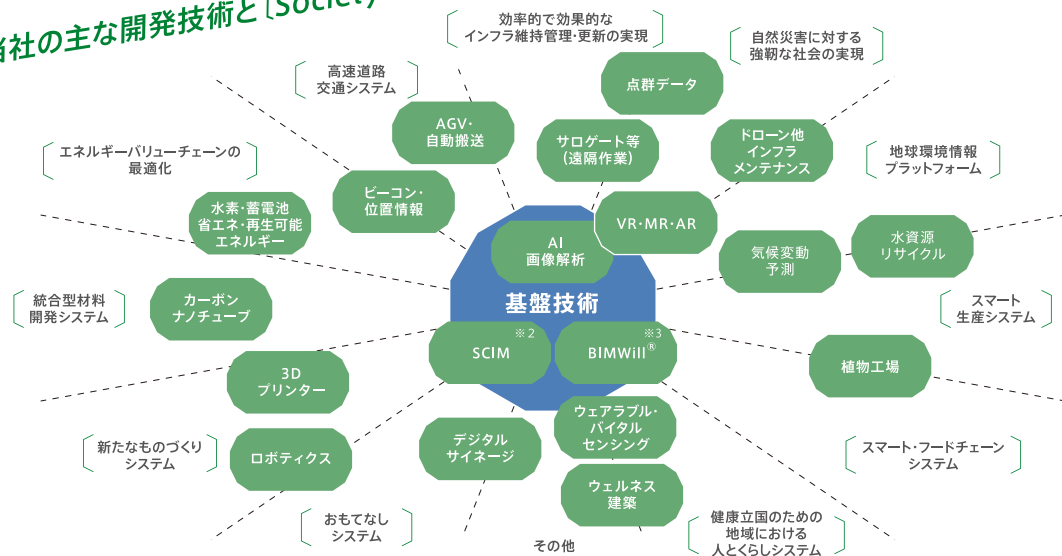
将来必要となる技術を常に模索し続ける姿勢が求められます。

お客様や社会のニーズを的確に把握し、これらの期待に応え続けることが「技術の大林」と呼ばれる私たちの誇りです。



当社の主な開発技術と[Society 5.0]を目指す11分野の関連

[]: Society 5.0実現のための11システム



※1 日本政府が掲げるイノベーションを通じて達成する新たな未来社会像。2017年11月に(一社)日本経済団体連合会は、Society5.0の実現を通じたSDGsの達成を柱として「企業行動憲章」を改定
 ※2 Smart City Information Modeling コンピューター上に街を丸ごと再現し、エネルギー使用状況などの情報やサービスを一元化する当社開発システム
 ※3 BIMモデルを活用して各種システムと連携し、建物及び設備機器などの保守点検作業の効率化・高度化を実現する当社が開発した建物統合プラットフォーム

最先端技術を生み出す技術研究所

「技術の大林」を支える、社会を先導していく技術研究所。生産、構造、環境、地盤の分野における新技術の開発などを手掛けています。また、本研究所のコンセプトとして、最先端の環境配慮、安全・安心、研究環境の3つを掲げています。国内最大レベルの3次元振動台、世界最大の地盤工学・地震工学用実験装置、火災工学実験棟や電磁環境実験棟にいたるまで、多岐にわたる領域の技術開発を可能にする設備を設けています。



詳しくはこちら

Business

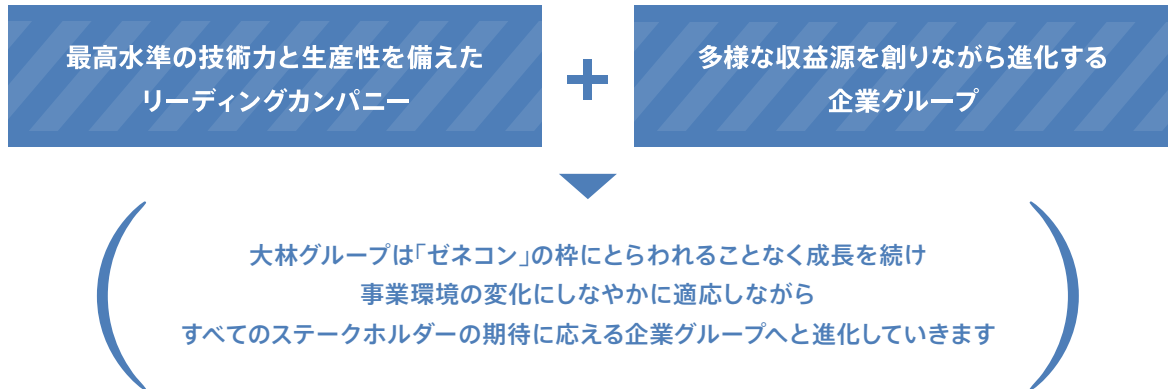
目指す将来像と4つの事業

生活基盤であるインフラや都市の象徴となる建造物、さらには都市全体の未来を創造する都市開発などを手掛ける大林組。

130年以上の歴史のなかで培われた技術を活かし、時代をつくりあげてきました。

現在は「建築」「土木」「開発」そして「新領域」という4つの事業を柱に、社会の安全・安心、経営のさらなる安定に向け、事業を進めています。

大林グループの長期的な成長に向けて、創業150周年(2042年)の「目指す将来像」を次のとおり定めています。その実現に向け、4つの事業の強化を戦略の核に、事業領域の深化・拡大、グローバル化を加速させていきます。



新領域

4本目の収益基盤の柱として再生可能エネルギー、アグリビジネス、PPPなど、建設・開発以外の事業領域に挑戦している新領域事業。再生可能エネルギー事業では、2012年に建設業で初めて太陽光発電事業に参画しました。2017年には風力発電事業、2018年にはバイオマス発電事業において売電を開始し、現在は全国で30カ所の発電施設が稼働しています。アグリビジネスでは、太陽光型植物工場でミニトマトを栽培しており、将来的な事業拡大を目指し栽培技術の知見を深めています。また、PPP事業では、これまで培ったノウハウを活用し、業界のトップランナーとして新規案件の獲得に積極的に取り組んでいます。



開発

建設業で蓄積してきたノウハウを活かし、自らのアイデアを加えていくことで都市の未来を創造していく開発事業。企画から建設、そして事業化までをワンストップでプロデュースしていくため、大林組が持つ高い技術力を最大限に活かしたまちづくりをすることが可能です。この事業の目的は、さまざまな課題を持つ都市を魅力的に再生し、住みたい場所、訪れたい場所として価値を高めていくということ。ファイナンスや税制、管理運営など幅広い知識や考え方が必要になりますが、街全体を創り出すという大きな影響力、可能性を持っている事業です。



土木

道路、橋梁、地下鉄、トンネル、ダムなど、人々が生活していく上で必要不可欠な社会基盤を支える土木事業。数十年社会を支え続ける建造物に関わることも多いこの事業では、長期的に社会全体を捉える視点、自然と調和するという考え方も重要です。加えて、ICTを駆使した生産性の向上など、技術の進化も図り続けなければなりません。また、これまで築いてきた技術力は世界からも認められており、特に東南アジア、北米、オセアニアなどへ積極的に展開。地域経済発展、そして世界経済の発展に貢献しています。



建築

ビルやマンション、学校、病院、駅、工場そしてスタジアムにいたるまで幅広く建設し、より豊かな社会を築く建築事業。免震、制震技術による災害に強い建物の提供、省力化・短工期化工法の開発などを通じて、社会の安全・安心に貢献しています。近年は首都圏を中心に需要が拡大しているリニューアール工事業や、高度なエンジニアリング技術の提案による生産施設建設工事など、技術力と総合力を活かした高付加価値サービスにより、多様化する社会のニーズに応えています。海外では東南アジアや北米を中心に、現地法人を主体として地域に密着した事業展開を進めています。

4つの事業

目指す将来像

学科／専攻と職種

大林組では、学校で得た知識を活かしながら、高度かつ深い専門知識や技術を身につけてもらうことを目的とし、学校での専攻分野に応じて応募可能な職種を決めています。

学科 / 専攻	建築職	土木職	設備職	機電職	事務職
土木系・土木環境系		●		●	
建築系・建築環境系	●		●	●	
都市工学系	●	●			
機械系			●	●	
電気・電子系			●	●	
物理系・生物系・化学系		●	●	● (物理系)	
情報系・数理系		●	●	●	●
文系全般					●

担当業務と職種

プロジェクトではさまざまな職種の担当者が携わります。
それぞれの専門知識・スキルを活かしながら、プロジェクトを成功へと導きます。

担当業務	建築職	土木職	設備職	機電職	事務職
営業	●	●	●	●	●
営業支援(営業企画、不動産・テナント営業、契約)					●
営業支援(見積、積算)	●	●	●	●	
開発事業	●	●	●		●
新領域	●	●	●	●	●
設計	●	●	●		
技術の開発・研究	●	●	●	●	
エンジニアリング	●	●	●	●	
施工管理	●	●	●	●	
生産支援(技術)	●	●	●	●	
生産支援(生産設計)	●				
生産支援(調達、企画)	●	●	●	●	●
情報	●		●		●
現場事務					●
管理(総務、人事、法務、経理、財務)					●

プロジェクト工程

1. 企画提案

発注者（お客様）からの建設計画を受け、営業を中心に最適な社員で構成されたプロジェクトチームを発足。設計や技術、見積、積算部門などの社員と共に、大林組の高い技術力を根拠とした最善の提案を目指します。

2. 設計

企画提案、入札のためのデザイン案の作成や見積、積算作業に必要な「基本設計」を行います。この基本設計をベースとして最終的に提案を行うため、設計の役割はとても重要です。また、受注後も発注者の要望をより深くくみ取り、それを具現化するための「実施設計」に入ります。

3. 受注

複数の建設会社との競争入札を経て、受注にいたります。企画・設計に携わった社員にとって、受注の瞬間に味わう喜びはとても大きなものです。受注後は、建物の細かな仕様や受注金額についての交渉及び契約が行われるとともに、現場で施工にあたる工事事務所が組織されます。

4. 施工

着工前に綿密な計画を立てることはもちろん、日々変わりゆく状況や課題に柔軟に対応することで、最終的に品質の高いものをつくりあげていきます。そのためにもQCDSE(Quality Cost Delivery Safety Environment)を管理する現場のマネジメント力は重要。また、現場だけでは解決できない課題などは、生産支援部門などと連携し、施工を進めます。

5. 竣工・引渡し

プロジェクトに携わった社員にとって、竣工した建物を引渡し、発注者が喜ぶ姿を見ることは仕事の醍醐味のひとつ。最高品質のものを多くの発注者へ提供し続けることが信頼につながり、次の工事受注はもちろん、社会の発展にも大きく貢献することとなります。

6. アフターサービス

引渡しにより、プロジェクトが完了というわけではなく、より良い状態で長く使用してもらうためにアフターサービスは欠かせません。建物のメンテナンスや改修を行うことで、顧客満足を継続的に高めることができるうえ、利用者の方々の安全・安心を守るという点でも大きな役割を担っています。

職種紹介

建築（生産・開発・研究）

建築（設計）

情報

土木

設備

エンジニアリング

機電

事務

大きなものづくりを支える
一つひとつの職種に迫る

大林組ならではのスケール感のあるものづくりは、どのようにして進んでいくのでしょうか。
ここでは各職種の役割やキャリアパスについてご紹介します。



生産・開発・研究など、多くの部門が団結して唯一無二の建築物を目指す

生産をはじめ、開発・研究などの部門があり適性を見極めて配属

建

建築には後に紹介する「設計」「情報」以外に「生産」をはじめ、「開発」「研究」などの部門があります。「生産」では、入社後1年間は座学を交えた教育で学び、2年目からはOJTを通して現場監督の仕事を経験。3年目の本配属までに現場施工管理の基本を学びます。また活躍の舞台は世界各地に広がっているため、若手社員を対象に英語圏のプロジェクトで約2年間の実務経験が積める海外トレーニング制度も用意。若いうちからグローバルな仕事にもチャレンジする機会に恵まれています。

「開発」「研究」では、入社後1年間は現場にて施工管理を経験し、2年目以降もゼネコンの総合力を意識して業務に取り組める教育プログラムとしています。



協力:東日本旅客鉄道
JR新宿ミライナタワー、バスタ新宿

ICTを積極的に導入し最先端技術を現場で活用



熊本城 点群データとBIMモデルの合成

生

生産部門には、建築職全体の約70%の職員が在籍しています。生産部門の役割は、資材の発注や工事の進行管理、施工図の作成など、設計図から建物をカタチにするための幅広い業務を行うことです。また大林組は、同業他社に先駆け、2012年に施工管理の職員にiPadを一斉支給したように、ICTの活用を積極的に推進しています。ドローンによる測量や点群データの活用、BIMによるデータ管理などの最先端技術を駆使しながら、唯一無二のものづくりを追求しています。

さまざまな課題を解決しながら「まち」をつくり出す仕事

開

発部門では、大規模な都市開発について、企画から事業化までトータルプロデュースを実施。有効活用されていない土地から「まち」をつくり出すため、スケールが大きく、建築職の中でもひとつの案件への関わりが最も多い仕事です。ハード面はもちろん、企画や施設の管理運営などのソフト面も手掛けます。また、営業支援部門として工事の受注に結び付けるための企画提案やコンサルティングも行ったり、大林組独自の専門知識とノウハウを活かし、さまざまな課題解決に取り組めます。



グランフロント大阪

「技術の大林を支える新技術・新領域への挑戦

研

研究部門では、建設に関する新しい技術の研究開発や技術の蓄積・システム化を行っています。その領域は環境から耐震省エネルギー、海洋開発、宇宙開発まで実に多彩です。こうした新技術・新領域へのチャレンジは、大林組が今後、事業領域を拡張していくための重要な取り組みであり、そこそが「技術の大林」を支えてきたと言えます。



技術研究所

求める人物像

最先端技術や新工法を用いることも多いため、新しい技術・技法を積極的に習得していきたいというチャレンジ精神旺盛な人に向いている。
学ぶことや覚えることも多いので、勉強熱心な姿勢も大事

CAREER PATH				
	20歳代(1~2年目)	20歳代~30歳代前半(3~10年目)	30歳代~40歳代(11~25年目)	40歳代後半~(26年目以降)
キャリア	新入社員、若年職員【教育期間】	実務職層	中間管理職層	上級管理職層~
社内(部門内)の位置づけ	係員	係員→主任	工事長→副所長→所長 副課長→課長→副部長(主席技師)	所長、部長(上級主席技師)、 統括部長、副支店長
配属店	本社・支店(原則、国内での業務)	本社・支店(国内／海外)	本社・支店(国内／海外)	
配属先	大林組の業務を理解	各部門で専門技術・知識を習得し、リーダーに成長	豊富な経験と高度な技術・知識を有したチームリーダー	高いマネジメント力により組織を運営、会社の発展に貢献
	●生産系職員 「国内生産(国内工事事務所)」 「生産支援(生産設計、見積部門等)」 ●開発系職員「開発、不動産部門等」 ●研究系職員「技術研究所部門等」 ●原子力系職員「原子力部門等」	●生産系職員 「国内／海外生産(工事事務所)」 「生産支援(工事部、生産技術、 生産設計、調達、見積部門等)」 「営業部門等」 ●開発系職員「開発、不動産部門等」 ●研究系職員「技術研究所部門等」 ●原子力系職員「原子力部門等」	●生産系職員 「国内／海外生産(工事事務所)」 「国内／海外生産支援(工事部、 生産技術、生産設計、調達、 見積部門等)」 「営業部門等」 ●開発系職員「開発、不動産部門等」 ●研究系職員「技術研究所部門等」 ●原子力系職員「原子力部門等」	●生産系職員 「国内／海外生産(工事事務所)」 「国内／海外生産支援(工事部、 生産技術、生産設計、調達、 見積部門等)」 「営業部門等」 ●開発系職員「開発、不動産部門等」 ●研究系職員「技術研究所部門等」 ●原子力系職員「原子力部門等」
配属先でどんな経験が 習得できるのか	●基礎的なビジネススキルを習得 ●大林組職員としての基本姿勢を学ぶ ●指導員のもと、さまざまな工種の 現場施工管理の基礎を習得 ●協力会社や社内関係者との関わりを 通じてコミュニケーション能力を向上 仕事の幅が広がり、面白く感じるころ...	●担当する仕事の流れの把握 ●コミュニケーション力とバランス感覚の向上 ●後輩の教育、指導育成 先輩として、後輩をリードする ●さまざまな実務経験を通して得た知識 や技術をもとに主体的に業務を遂行 ●現場のあらゆる事象変化を察知し、 将来発生するリスクの予測力を習得 ●さまざまな業務を経験することで技術・知 識の幅を広げ、自らのフィールドを拡大する ●顧客対応など対外的な業務を経験す ることで、交渉力・プレゼン能力を向上 ●業務や自己研鑽を通して専門知識 を更に深化させる	●管理役職者としての マネジメント能力を習得 ●部門長の目標指針にもとづいた 戦略目標の策定推進 ●後輩、後継者の指導育成 ●管理役職者として現場運営の基礎を 学びプロジェクトリーダーとして成長 現場の全体運営が任せられ、 いよいよ所長に! ●部門リーダーとしての基礎を習得し、 マネジメント能力を向上 ●専門性を活かして学識経験者や 有識者との人脈を形成 ●これまでの業務で得た技術力、プレゼン 能力を発揮し、新たなプロジェクトを獲得	●上位管理職としての マネジメント能力を習得 ●部門長として、経営目標や運営指針に もとづいた部門戦略目標の策定推進 ●部門長として組織を統率して業務を 遂行するとともに、各部門との調整を 通じて会社の総合力を高める ●後輩、後継者の指導育成 ●現場所長として高度なマネジメント能力を 発揮し、国内や海外のプロジェクトを完遂 ●卓越した技術を有した技術者として 全社的な技術力の向上を図る
奨励資格等	●一級建築士、一級施工管理技士(建築工事、管工事)、コンクリート技士、コンクリート主任技士、鉄骨工事管理責任者、技術士 等			
業務別研修 (生産系)	新入社員 建築導入 生産設計研修	富士教育 訓練 建築生産 2年目研修 BIM研修	建築生産 3年目研修 建築生産 4年目研修 建築生産 実務	
業務別研修 (生産系以外)	建築施工管理	[研究]テーマ別研修		[研究]テーマ別研修、能力向上研修
共通研修	新入社員共通研修	実務職層Ⅰ	実務職層Ⅱ	中間管理職層Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 上級管理職層



最先端ICTの可能性を追求し、建設業の明日を変えるイノベイター

「BIMを活用することで建設プロセスをスムーズに」
PDセンターの仕事は、建設事業全体にBIM(Building Information Modeling)を導入し、業務の生

「情報システム」で、オフィスなどでプレゼンテーションや会議に用いられる「AVシステム」監視カメラやカードリーダーといった「施設セキュリティ」などです。豊富な知識や実績のもと、企画から導入まで一貫して携わるトータルソリューションを実現します。

「PDセンターの仕事は、建設事業全体にBIM(Building Information Modeling)を導入し、業務の生

「次世代ツールを開発・導入し現場や各部門の課題を解決」
ローバルICT推進室では、最先端のICTソリューションを導入することにより、現場や各部門のスタッフが抱える課題解決を目指します。そのひとつが、業界でもいち早く行われた現場へのiPadの導入や、手書きメモアプリの開発などです。また教育現場においてもICTを活用し、VR空間で鉄筋の配筋検査ができる研修などを実施。今後も現場や各部門スタッフのニーズをくみ取りながら、最先端ICTの可能性を追求していきます。

「便利さと安全性を提供し、建物の価値を高める」

情報系の仕事は、情報エンジニアリング部、iPDセンター、グローバルICT推進室の3つの部門が担当し、「建築」「設備」「事務」の職員から構成されています。

「産性や品質を向上させることです。」「設計」「生産」「設備」「企画管理」の4グループから構成され、プロジェクトの支援やBIM活用についての提案検証などを実施。たとえば構造設計の分野であれば、鉄骨などの部材のモデル要素にスケジュール情報を入力することで、実際の工程に沿ったシミュレーションを可能にします。

情報

情報
エンジニアリング
BIM活用推進
先端ICT導入推進



最先端の技術に支えられた最良のデザインをカタチにするクリエイター

「建築・設計部門の仕事は、お客様のニーズを的確に読み解き、先端技術を取り込んだ優れたデザインを設計図書にまとめ、広く世の中に貢献する成果をカタチにして提供することです。」
設計者は、お客様のみなさん、各専門家、社内他部門と相互に理解し合い、互いの信頼にもとづいて相乗効果的なコミュニケーションを繰り返ししながら「共に創る」、その中心的な役割を担います。入社後は現場研修があり、設計図書をもとにした現場での実際のものづくりを経験します。その後、設計各部門に配属となり、設計実務を経験しながらスキルアップを図ります。社内の技術開発部門、施工支援部門等の協力を得ながら、主担当として早い段階からプロジェクトを動かし、まともていく立場を経験することができます。

Topics

大林組設計部の情報発信「ARCHITORIUM(アーキトリウム)」

「ARCHITORIUM」とは、ARCHITECTURE(建築作品)、それを創り出すHITO(設計者)、情報が集う場となるATRIUM(アトリウム)の3つの言葉をもとにつくられた造語です。ウェブサイトと情報誌を連携し、これまで大林組設計部が手掛けたプロジェクトを紹介。ゼネコン設計部ならではの技術力をはじめ、建築や空間をキーワードに各界で活躍されているトップランナーとの対談を掲載するなど、多彩なコンテンツを写真や動画により分かりやすく紹介しています。また、情報誌は設計部門の若手社員が編集者となり、テーマの設定から原稿作成、冊子のデザインに至るまですべて自分たちで担当。設計部門独自の媒体を通して、社外への積極的な情報発信に努めています。



「出す中心的役割を担っています。」「最先端の技術に支えられた最良のデザインと品質をカタチにする、やりがいのある仕事です。」

求める人物像

「唯一無二のものづくりに、思想と情熱をもって取り組める人。柔軟な発想と優れたコミュニケーションにより、プロジェクトを取りまとめ、主体的に推進できる人」

CAREER PATH

	20歳代(1~2年目)		20歳代(3~5年目)		30歳前後(6年目~)		30歳代中盤~(12年目以降)	
キャリア	新入社員				実務職層		中間管理職層／上級管理職層~	
社内(部門内)の位置づけ	係員		係員		係員、主任		副課長、課長、副部長、部長、室長	
配属店	本社・本支店				本社・本支店・海外			
配属先	建築職・設備職 ジョブローテーション(入社から~5年目)				建築職・設備職 ジョブローテーション後、適性・キャリア育成等を踏まえICT3部門のいずれかに配属			
	[建築職] ●入社後1~2年間で施工管理(現場)の実務を経験 [設備職] ●入社後2年間で設備設計と施工管理(現場)の実務を経験		[建築職・設備職] ●ICT3部門のうち2部門で実務を経験 ICT3部門 ・情報エンジニアリング部 ・iPDセンター ・グローバルICT推進室		[建築職・設備職] ●ICT3部門のいずれかに配属 ICT3部門 ・情報エンジニアリング部 ・iPDセンター ・グローバルICT推進室		基礎知識を取得した後、より深く最先端ICTを学んでいく 活躍の可能性は海外にも広がる	
	事務職 ジョブローテーション(入社から6年間)				事務職 ジョブローテーション後、グローバルICT推進室へ配属			
	●入社後3年間はグローバルICT推進室の実務を経験		●入社4~6年は工事事務所(現場事務)、本社・本支店における各部門を経験 本社・本支店における各部門 管理部門(総務、人事、財務、経理)、営業部門、営業支援部門、不動産(開発)部門 生産支援部門		●グローバルICT推進室に配属 ローテーション終了後は、いよいよ専門的な部門へ		共通 ICTを活用する関連部門への配属 人物適正・キャリア育成等をふまえICTを活用する関連部門へ配属	
奨励資格等	●ICT系 基本情報技術者、応用情報技術者 ●[部門共通] 一級建築士、建築設備士、技術士、宅地建物取引士							
職種別研修 業務別研修 共通研修	ICTスキルUP講習				技術研修			
	実務職層I 実務職層II				マネジメント(トレーニング) 中間管理職層I II III 上級管理職層			

CAREER PATH

キャリア	20歳代(1~5年目)		30歳代以降	
	新入社員	実務職層	中間管理職層~	
配属店	本社・本支店		本社・本支店・海外	
配属先	[建築設計] 現場勤務 ジョブローテーション 国内で建築設計2部門を経験 ●大規模プロジェクトの担当、中小規模プロジェクトの担当・担当		●大規模プロジェクトの担当、中小規模プロジェクトの担当	
	[構造設計] 現場勤務 ジョブローテーション 国内で構造設計2部門を経験 ●大規模プロジェクトの担当、中小規模プロジェクトの担当		●大規模プロジェクトの担当、中小規模プロジェクトの担当	
			さまざまなプロジェクトを経験し、入社後5年で、一人前の設計者に成長	
			●本社、国内各店の設計部門、また海外において設計者としてプロジェクトに従事します ●知見、技術を高めるため、海外の設計事務所等への派遣もあります	
奨励資格等	●一級建築士 等			
業務別研修	指導員制度 建築設計:入社半年後以降、構造設計:入社2年目以降		指導員制度:若年職員の能力向上、早期の専門技術知識習得支援のため、同じ職場内の指導員が若年職員と目標を立て達成できるよう指導します。	
	建築設計導入研修		構造設計導入研修	
	スキルアップ研修			
	※ 共通研修は別途あります。			

※ 設備設計は設備職(28ページ)で紹介しています。

建築設計

建築設計
構造設計



先輩社員情報はこちら

Topics

1964年のタイ事務所の開設以来、積極的に海外事業を展開してきた大林組。現在も世界各国で数多くのプロジェクトに参画し、特に世界最先端の技術が集まる北米市場に強いことも知られています。アジア、オセアニアでは、ダムやトンネル、橋梁をはじめ、海外ならではの圧倒的なスケール感のものづくりに挑戦しています。また、海外の学校や研究機関、関連企業への留学を若手・中堅社員を中心に支援するなど、グローバルに活躍できる人材の育成に注力しており、海外での存在感を高めるべく今後多角的な事業展開を図ります。

北米、アジア、オセアニア 活躍の舞台は世界に広がる



インフラを「つくる」だけでなく 速やかに「なおす」ことも重要な役割



「復旧後」



「復旧前」

気候災害や地震の発生が頻発化・激甚化するなかで、災害時の社会的要請に応えることが建設会社には求められます。被災したインフラを復旧する際には、臨機応変に対応できる技術力、作業員や資機材を速やかに結集して現場を前に進める推進力が必要です。いざという時に多くの協力会社が駆けつけてくれるのは、日頃からの信頼関係が築かれているからこそ成せる業。大林組ならではの底力が発揮される場所でもあります。人々のもとの暮らしを取り戻すため、速やかに「なおす」ことに全力を尽くす。インフラを「つくる」だけでなく、重要な役割でもあります。

「まもる」「つくりかえる」技術を追求し インフラ大規模更新時代に挑む

国内の道路橋及びトンネルのうち、約3割が建設から50年経過しています。その比率はこの先10年間で5割近くに達する見込みで、国内の建設市場は新規工事から更新工事へ急速に移行していきます。インフラ大規模更新工事の主な特徴として、通常の新規工事よりも難易度が高いことが挙げられます。

既存のインフラを供用しながら新たな構造物を構築するため、複雑な施工条件に対応できる高度な技術が求められるとともに、通行止め期間を極力短縮して渋滞発生等の周辺環境への負荷低減に努める必要があります。大林組では更新工事に向けたプロジェクトチームを組織し、発注者のニーズに合わせた技術開発や技術提案等を通じて、施工性・安全性の向上、新技術の現場への適用支援をはじめ、全社をあげてこの事業に挑みます。



撮影協力：首都高速道路保

再生可能エネルギーの普及へ向け、大型洋上風力発電所の建設に乗り出しました。蓄積された技術力やネットワークを活用し、今後の洋上風力発電の導入拡大、ひいては社会問題の解決に貢献していきます。業界のリーディングカンパニーとして新しい分野に挑戦できることも、大林組で働くうえでの大きな魅力です。

再生可能エネルギーの普及へ 洋上風力発電所建設向けのSEP建造



世界を舞台に暮らしを支えるインフラづくりのコンダクター



ひとりで決して成し得ない
壮大なものづくりの
最前線を担う

人々の暮らしを支える仕事は数多くありますが、自然を相手に壮大なスケールのもので、自然に携わることができるのは、ゼネコンの土木現場ならでは。世界最大級のトンネル建設、高速道路や鉄道をはじめとするインフラ整備・更新事業、激甚化する自然災害の復旧工事など、手懸ける工事は多岐にわたります。その最前線で指揮を執り、仲間と共に成し遂げた時の達成感は言葉で言い表すことはできません。時には数千人もの作業員と一緒に頭を悩ませ、汗をかきながら、世界で、一点ものの仕事に挑みます。

大 林組のものづくりは現場だけに留まりません。「常設」と呼ばれる設計や研究開発をはじめとする各々の部門が、現場と密に連携しながらプロジェクトを進めます。現場のニーズを踏まえた先端技術や材料の研究開発、難工事への対策工法など、豊富な経験と幅広い技術力を結集しています。また、応札業務を主とする営業部門や土木事業を取りまとめる企画管理部門など、それぞれの専門性を活かしながら最前線の現場を支援するとともに、お客様のニーズに応えていきます。

会社全体が一丸となり 巨大プロジェクトを 動かしていく



求める 人物像

自然条件、地域条件、人・もの・お金。現場ごとに異なるさまざまな要素を見極めて、刻々と変わる状況に柔軟に対応できる人。周囲のモチベーションを高めてけん引していく、バランスのとれた統率力が求められます

CAREER PATH

	20歳代(1～3年目)	20歳代～30歳代前半(4～10年目)	30歳代～40歳代(11～25年目)	40歳代後半～(26年目以降)		
キャリア	新入社員、若年職員	実務職層	中間管理職層	上級管理職層～		
社内(部門内)の位置づけ	係員	係員→主任	工事長→副所長→所長 副課長→課長→副部長(首席技師)	所長、部長(上級主席技師)、 統括部長、副支店長		
配属店	本社・本支店(原則、国内での業務)		本社・本支店(国内／海外)			
配属先	教育ローテーション(原則入社から3.5年間で国内3部門に配属) ●国内生産 工事事務所 ●生産支援(本社) 設計部門、技術部門、技術開発部門等	適性を踏まえたローテーションにより更なるスキル習得 ●国内生産／海外生産 工事事務所 ●本社・本支店における各部門 設計部門、技術部門、研究開発部門、営業部門等	豊富な経験と高度な技術・知識を有したチームリーダー ●国内生産／海外生産 工事事務所 ●本社・本支店における各部門 設計部門、技術部門、研究開発部門、営業部門、企画管理部門等	高いマネジメント力により組織を運営、会社の発展に貢献 ●国内生産／海外生産 工事事務所 ●本社・本支店における各部門 設計部門、技術部門、研究開発部門、営業部門、企画管理部門等		
奨励資格等	●技術士、一級土木施工管理技士、コンクリート技士・主任技士、コンクリート診断士					
事業別研修	(選抜型)工種別研修					
職種別研修	新入社員 (2週間程度) 研修	土木生産 技術基礎研修 (2年目)	土木基礎 研修(3年目)	土木実務職 研修(8年目)	土木中間管理 職研修(15年目)	(選抜型)土木交渉力強化研修・土木新任所長研修
共通研修			実務職層Ⅰ 実務職層Ⅱ	中間管理職層Ⅰ 中間管理職層Ⅱ 中間管理職層Ⅲ	上級管理職層	



施工管理
┆
企画管理
┆
設計・技術支援
┆
見積・積算
┆
営業
┆
研究開発
┆





主な仕事内容

入社後、まずはジョブローテーションにて
設計、見積、施工管理の3部門を経験します。

施工管理



作業内容は安全
か、工程や品質基
準は守られている
かなど、設備工事
全般の安全・工程・
品質・原価・環境を
管理します。現場の状況は常に変化している
ため、密な情報交換や準備、調整が求められ
ます。また設備工事が単独で行われることは
ほとんどなく、基本的には建築工事と連動し
ているため、建築職員や関連会社とのコミュ
ニケーションも不可欠です。

見積



営業が入手した図
面・資料をもとに、
設備に関する見積
業務を行います。
具体的には、各協力
会社・メーカーに図
面を配布し、見積の徴収を実施。各社や過去
実績との比較分析をしたうえで金額提示を
行います。競合案件の場合は、大林組の受注
意欲を協力会社やメーカーに理解してもら
い、全員で一丸となって、勝てる金額を導き
出す過程にやりがいを感じます。

設計



設備設計では「空
調・換気設備」「衛
生・消火設備」「電
気設備」「輸送設
備」などの建築設
備を設計します。
建築設備のシステムは、用途や規模により千
差万別です。お客様の潜在的なニーズを探
り、地球環境に配慮した陳腐化しないシステ
ムを構築していきます。システムが想定通り
の性能を発揮した時には、大きな達成感が得
られます。

ジョブローテーション後は、さらに幅広い分野へチャレンジできます。

スマートシティ



ICTなどの新技術を活用しながら、全体最
適化を図る持続可能な都市・地区スマート
シティに関連するビジネスに積極的に取り
組み、数年後のビジネス獲得を目指して、建
設事業や新領域事業に繋げていく役割を担
います。主な業務は、環境・エネルギー関連技
術の研究開発、事業化に関する企画・支援、そ
れらの技術やノウハウをパッケージ化して
事業提案やまちづくり提案を推進すること
です。社内の幅広い部門と連携するほか、必
要に応じて社外への業務委
託や共同研究なども実施。
環境・エネルギー関連の業
務に携わることが多いた
め、環境性向上に貢献でき
ることや、自分たちで企画・
検討して方向性を決められ
る点が魅力です。

リニューアル



既存の建物の調査・診断・リニューアル工事の
企画提案・見積などを行います。分業制の新築
工事とは異なり、リニューアル工事ではお客
様と直接打ち合わせをして、計画から竣工ま
で一貫して担当します。建物調査診断では、専
門家の目線で機能性や老朽度、快適性といっ
た建物の情報を総合的に把握し、問題点を抽
出。同時に、お客様や日頃メンテナンスを行っ
ている関連会社など、建物に関わるすべての
人からヒアリングを行うことで、図面からは
読み取ることのできない課
題やお客様のニーズを捉え
ます。また、時間とともに劣
化している部分に関しては、
耐震補強や省エネ提案、ビル
の内外装のデザインの刷新
なども提案することで、建物
の資産価値を高めるお手伝
いをしています。

技術研究



技術研究所の業務は、事業に役立つ技術開発
と、事業への技術的支援の2つに大別できま
す。いずれも生産現場に目を向けながら、将来
のあるべき社会像の実現に向けた新技術の開
発を行います。例えば建築設備分野では再生
可能エネルギーによる水素製造と利用、人体
センサーから得られた生体情報の活用、執務
者の健康増進と知的生産性向上などの検討を
実施。これらを通して、社内関連部署の協力の
もと、新たな事業の創出を目指します。まだ世
の中で実用化されていない
技術を開発し、実際のプロ
ジェクトに採用された時に
は大きな喜びが感じられま
す。こうしたことから技術研
究所では、より広い分野にア
プローチを張り、新しい技術や
研究に好奇心を抱き続ける
姿勢が求められます。

新領域



太陽光・風力・バイオマスなどの国内外におけ
る再生エネルギー発電所の投資開発案件を担
当しています。プロジェクトマネージャーとし
て、現地の事業地の選定からビジネスパー
トナーの評価、現地エネルギー開発計画、ポテ
ンシャル調査、技術評価、事業収益モデルの作
成までを実施。事業主の立場でプロジェクト
の川上から事業を立ち上げ、マネージャとし
て社内の関連部署や社外の関連会社をリード
しながらプロジェクトを進めていくことがこ
の部署の特長です。それまで
経験してきた部署で培った
エンジニアとしてのスキル
を応用しながら、ビジネスや
金融、新技術などさまざまな
可能性を追求。建築設備にと
らわれず、より幅広い分野に
携わることができる点も魅
力のひとつです。

建築や都市に、“命（いのち）”を吹き込み、人々の生活を豊かにする

生活に欠かせない
電気やエネルギー、
水や空気のエンジニア

建

築部門の職員が基
礎工事から建物の
骨組み、外観などをつくるの
に対し、設備部門は建物の中
に入る機能全般に携わり、
人々の生活に欠かすことの
できないものづくりを行っ
ています。電気や給排水、空
調などお客様が求める機能
に対し、細やかなヒアリング
を行いながら最適な設計・機
能を提案。利用されるお客様
が快適に過ごせることはも
ちろん、その後の維持・管理
のしやすさや省エネルギー
を意識した設計など、さまざ
まな工夫が求められます。

ゼネラリストから
スペシャリストに

設

備部門では幅広い
知識やスキルが求
められることから、入社後す
ぐに配属先を決めるのでは
なく、まずはジョブローテー
ションにて、設計、見積、施工

時代のニーズを読み取り
新領域にも果敢に
チャレンジ

新

たな領域にも積極
的に取り組んでい
る設備部門。その可能性は、時
代のニーズやテクノロジーの
進化によって無限に広がって
います。近年では再生可能エ
ネルギーや省エネルギーへの
関心が高まっており、設備エ
ンジニアには、従来の建築設
備の枠を越えた幅広い分野で
の活躍が期待されています。
こうした新領域に挑戦するこ
とで、さまざまな角度からも
のづくりの付加価値を創造で
きる点も、設備職の魅力です。

求める
人物像

高い専門性を誇るスペシャリストになるためにも、まずは幅広い知識・スキルを持ったゼネラリストを
目指すことが大事です。未知の領域や分野に対しても、好奇心をもって意欲的に取り組む姿勢が求められます

CAREER PATH

	20歳代前半(1～4年目)		20歳代後半～30歳代前半		30歳代中盤～
キャリア	新入社員		実務職層		中間管理職層 上級管理職層～
社内(部門内)の 位置づけ	係員		係員 主任		本社・本支店部門: 副課長、担当課長、課長、 副部長 工事事務所: 工事長、副所長 本社・本支店部門: 担当部長、部長、 統括部長 工事事務所: 副所長、所長
配属店	本社・本支店(国内で業務)			本社・本支店・海外	
配属先	ジョブローテーション(入社後に設計・見積・施工管理を経験)				
	[設計] ●本社・本支店における設備設計部門		幅広い知識と技術を身に付け、活躍するフィールドを広げていく		
	[施工管理] ●本支店における各工事事務所		適性・キャリア等を踏まえ人材配置します		
配属先	[見積] ●本支店における見積部門		現場での実務経験を積み重ね、プロジェクト全体を束ねるリーダーに成長していく		
	[その他] ●技術開発やリニューアル、海外部門等		●工事事務所 ●設計、見積、その他部門		
			高度な専門知識と技術を習得し、後輩の指導や部門の戦略を立案・推進していく		
奨励資格等	●一級建築士、設備設計一級建築士、一級施工管理技士(管工事、電気工事、電気通信工事、建築工事)、建築設備士、技術士、第三種電気主任技術者				
職種別研修	新入社員 研修	フォロー 研修Ⅰ	フォロー 研修Ⅱ	実務 研修Ⅰ	実務 研修Ⅱ
共通研修				生産実務研修Ⅰ	生産中間管理職研修Ⅰ
				実務職層Ⅰ	実務職層Ⅱ
				中間管理職層Ⅰ	中間管理職層Ⅱ Ⅲ 上級管理職層





「ロボティクス」で建設業に変革をもたらすパイオニア

PICK UP!

大型風車組立装置「ウインドリフト」の開発で課題解決！

従来の超大型クレーンを使用する風車組立では、クレーンの調達や広大な施工ヤードを必要とすることが課題でした。課題を解決するために、超大型クレーンを使用しない新工法開発がスタートし、リフトアップ方式の風車組立装置「ウインドリフト」を開発しました。本工法は、クレーンの調達に影響されず施工ヤードを最小限にすることができ、コストダウンも実現しました。



求める人物像

人と接することが好きな人、チャレンジ精神旺盛な人、人々の暮らしを支えるインフラや大きなものづくりに携わりたい人に向いています

電機は、各工事に最適な工事機械や電気設備を判断・導入し、現場をリードする技術系職種です。限られた時間と予算の中で、最も効率的に、安全かつスピード感のある工事を行うにはどうすればいいか。工事機械・電気設備の選定や調達を通じて工事の施工計画を行い、自身で施工管理します。シールドマシンひとつをとっても、現場の環境や特徴を理解し、その現場のためだけの掘削機を製造するなど、現場ごとに最適なプロセスを追求することで、付加価値の高い

職種間の懸橋として、ものづくりの現場を変えていく

機電

電機は、各工事に最適な工事機械や電気設備を判断・導入し、現場をリードする技術系職種です。限られた時間と予算の中で、最も効率的に、安全かつスピード感のある工事を行うにはどうすればいいか。工事機械・電気設備の選定や調達を通じて工事の施工計画を行い、自身で施工管理します。シールドマシンひとつをとっても、現場の環境や特徴を理解し、その現場のためだけの掘削機を製造するなど、現場ごとに最適なプロセスを追求することで、付加価値の高い

2019年4月より新たにロボティクス生産本部を発足し、東日本と西日本にロボティクスセンターを設置しました。大林組には従来の工法にとらわれない、最先端技術を用いた工法を生み出すための万全な環境が整っています。今後ICT・IoT・AIを活用し、作業用ロボットや自動・自律施工に向けた技術開発を行い、大幅な生産性向上を図り日本の建設現場の変革を担います。「ロボティクス技術」の導入と先端技術開発を推進するために、今後は機械・電気技術者のもとより、幅広い学科からチャレンジ精神旺盛な人を求めています。



5G遠隔操作



自動・自律施工



最大級シールドマシン

機電

施工計画
施工管理
技術開発
運用管理

時代を先取る技術力で成長分野に挑むエキスパート

ゼネコンならではの総合力でものづくりに付加価値を

工

エンジニアリング部門では建築・土木の建設事業で従来扱われてこなかった、専門性を伴う業務を担当しています。施設計画から設計、調達、施工、試運転及び検証にいたるまでの専門技術分野を担務することで、最適なコストパフォーマンスをお客様のニーズを実現します。主に取り組んでいる分野は4つです。医薬品、食品や電子・半導体関連工場の生産関連設備に対応する「生産施設分野」、太陽光や風力などの再生可能エネルギー発電所の関係設備システムをサポートする「環境施設分野」、病院、学校や商業施設などさまざまな施設に関わる情報システムを構築する「情報分野」、そして土壌・地下水汚染の浄化・除染に係る調査・対策工事をサポートする「土壌環境分野」です。ほかにも、タイなど東南アジアの現地法人と協働しながら、東南アジアでの事業活動も推進しています。いず

れも建築・土木部門と連携することで、高い付加価値を持つ技術分野を扱うビジネスモデルを構築しています。総合建設業のエンジニアリング部門ならではの総合力を活かし、将来性マーケット性のある成長分野に挑戦しています。

■ 取り組み分野と役割

生産施設分野	生産機器設備工事、生産支援設備工事、基本計画設計など
環境施設分野	再生可能エネルギー関連施設の技術提案、施工支援など
情報分野※	建物の付加価値を高める情報システム構築、技術提案など
土木環境分野	土壌・地下水汚染の調査・対策、計画立案、施工支援など

※ 情報分野についてはP25を参照

求める人物像

常に新しい知識・スキルを吸収し、計画・設計から施工までのプロジェクト全体に積極的に関わる姿勢がある人。お客様や社内の関係者に対し、自分の考えをわかりやすく伝えるためのコミュニケーション能力が求められます

C

CAREER PATH

	20歳代	30歳代前半～	30歳代中盤～	
キャリア	新入社員、若年職員	実務職層	中間管理職層	上級管理職層～
社内(部門内)の位置づけ	係員	係員 主任	本社・本支店・ロボティクスセンター：課長、副部長、副所長 工事事務所：工事長	本社・本支店：部長、部門長 ロボティクスセンター：部長、所長 工事事務所：副所長
配属先	ジョブローテーション(入社から5～7年)少なくとも常設1部署、現場1ヵ所を経験 ●ロボティクスセンター(半年) ●工事事務所 ●ロボティクスセンター	ジョブローテーション後は、人物の適性・キャリア等を踏まえて人材配置します	●工事事務所 ●本社本支店・ロボティクスセンター	
主たる業務	[共通] ●ロボティクスセンターにて建設業における機械電気基礎を実務研修 [工事事務所] ●機電職の上司のもと、国内工事事務所に、機械電気関連の施工計画・管理を行う [ロボティクスセンター] ●左記に加え、技術開発業務にも携わる [本社・本支店] ●工事機械の運用管理、現場施工支援を担当	[工事事務所] ●海外勤務の可能性あり ●機電のリーダーとして現場に配属 [ロボティクスセンター] ●左記に加え、技術開発業務にも携わる [本社・本支店] ●機械部門における運営検討や経営方針の策定も行う	[工事事務所] ●管理職として、機電のエンジニアリングに加えて、マネジメントも重要に [ロボティクスセンター] ●先端的技術開発の推進者に [本社・本支店] ●機械部門における運営検討や経営方針の策定も行う	
奨励資格等	●一級施工管理技士(各種)、電気主任技術者、技術士 等			
職種別研修業務別研修共通研修	専門研修 機電基礎Ⅰ	フォロー研修 機電基礎Ⅱ 実務職層Ⅰ	最新技術研修 機電基礎Ⅲ 機電基礎Ⅳ 実務職層Ⅱ 中間管理職層Ⅰ Ⅱ Ⅲ	上級管理職層

C

CAREER PATH

	20歳代	20歳代後半～30歳代前半	30歳代中盤～	
キャリア	新入社員、若年職員	実務職層	中間管理職層	上級管理職層～
社内(部門内)の位置づけ	係員	係員、主任	本社・本支店：副課長、課長、副部長 工事事務所：工事長、副所長、所長	本社・本支店：部長 工事事務所：所長
配属店	本社・本支店(国内で業務)	本社・本支店(国内/海外)		
配属先	ジョブローテーション(現場を含む複数部門を数年かけて経歴) ●本支店の工事事務所(エンジニアリング本部が関係する工事に限らない) ●本社・本支店の設計部門等	社内トレーニング制度を利用して、エンジニアリング以外の部署で実務経験 ●エンジニアリング本部 各部 ●本支店の工事事務所(主にエンジニアリング本部が関係する工事事務所)		
主たる業務	●現場の施工管理(工程・品質) ●発注者や業者との打ち合わせ ●各種仕様書・図面の作成	●施設の計画・提案 ●現場の施工管理(工程・品質) ●自らのテーマ選定による技術開発 ●後輩の指導育成	●高い技術力と知識を持ったプロフェッショナルとして、プロジェクトをマネジメント ●部門長として組織を統率し業務を遂行 ●後輩の指導育成、後継者の育成	
奨励資格等	●生産施設、環境施設分野：技術士、一級建築士、建築設備士、電気主任技術者 ●土壌環境分野：技術士、一級土木施工管理技士、土壌環境保全士、土壌汚染調査技術管理者	●情報分野：技術士、建築設備士、一級建築士		
職種別研修業務別研修共通研修	●建築職：現場施工管理教育 ●設備職：現場施工管理教育教及び設備設計 ●土木職：現場施工管理教育	●人事部および各職種別に実施する共通、職種別研修に参加 実務職層Ⅰ 実務職層Ⅱ	中間管理職層Ⅰ Ⅱ Ⅲ	上級管理職層

エンジニアリング

生産施設
環境施設
情報
土壌環境

主な仕事内容

調整力や信頼関係の構築など
担当者の力量が試される仕事

ゼネコンの営業は、目に見える「もの」がないなかでお客様に提案するため、社内外の折衝能力やお客様との信頼構築など、担当者の力量が成果につながりやすい仕事です。ハイレベルの提案でお客様の要望に応えるべく、10以上の部門から技術者を招集し、プロジェクトマネージャーとして提案を推進します。一方、営業支援は営業施策の立案、工事請負契約の審査、契約書作成などを担当。営業は4部署目以降30歳代前半から、営業支援は入社後すぐに配属される可能性があります。

営業・
営業支援



現場事務



施工以外の業務全般に携わり
技術職と共に工事に挑む

工事全体の収支損益や労務の管理、事務所設置に伴う手続きや協力会社との請負契約などを幅広く担当。さらに社内外の情報収集を積極的に行い、現場を活性化させることも事務職の大事な役割です。適切なタイミングで正しい情報を展開することで、技術職員から頼られ、感謝されることはやりがいのひとつです。大規模な現場では2〜3名が所属し、中小規模の現場では1名で複数の現場を兼務することもあり。少数精鋭のため、本支店で業務経験を積んだ入社2〜3年目以降で配属となります。

不動産を通じた受注支援や
安定的な利益創出を追求

開発の仕事は大きく分けて2種類あります。1つは不動産の仲介やテナントリーシングなどによる建設工事の受注支援業務です。社内外を問わず人脈を築き、幅広いネットワークを構築しながら、発注者の不動産に関するニーズに対し、迅速かつ最適な提案を行います。もう1つは、オフィスなどの賃貸事業に投資することで、安定的な収益を確保する不動産開発業務です。保有不動産の収益管理や新たな賃貸収益の計画策定などを行います。いずれも入社1年目から配属の可能性があります。



経営資源を運営し、
さまざまな側面から会社全体を
マネジメントする

管理の仕事は、人・もの・お金・情報といった経営資源を適切に運用することです。さまざまな側面から企業活動の根幹を支える仕事であり、総務や人事、財務、経理、広報などの部署が該当します。入社1年目から多くの職員が配属され、実務を経験して幅広い知識を習得します。全てのステークホルダーと関わるため、質問や相談に応えるための柔軟な対応や、部門を越えて積極的に信頼関係を築いていく姿勢が必要です。常に会社全体を見渡す視点が求められます。

開 発

管 理

時にリードし、時にフォローしながらプロジェクトを支えるゼネラリスト

入 入社後7〜10年間はジョブローテーションを通して3つの部門を経験します。さまざまな業務を経験するなかで幅広い知識を習得し、自身の

**ジョブローテーションで
適性を磨く**

多 多くの技術者が活躍している大林組。しかし、ビジネスを回すうえで会社と現場の間に立つて、時にリードし、時にフォローに回りながら組織をまとめる事務職が重要な役割を担います。具体的には、各技術部門を束ね建設プロジェクトをリードする「営業」、不動産の賃貸・運用などに携わる「開発」、資機材の調達などを行う「生産支援」、施工現場の労務管理や会計業務などを担う「現場事務」、そして経理や総務、人事、ICTといった経営資源を運営する「管理」など、幅広い業務があります。

**連携プレーを発揮して
組織を円滑にまとめる**



適性を見出しただきます。入社後の配属先は、主に、総務、人事、財務、経理などの管理部門のほか、営業支援部門、開発部門、生産支援部門、事業企画部門などです。OJTを通して、社会人としての基礎知識やマナーを学び、社内ルールを習得した後、2部署目以降ではこれらの部門に加え、現場事務も配属先の候補に加わります。海外勤務は、国内部門で数年間経験を積み、志望度と適性を判断し、20歳代後半から海外拠点や海外現場を経験する可能性があります。

求める
人物像

人と接することが好きな人、チャレンジ精神旺盛な人、
人々の暮らしを支えるインフラや大きなものづくりに携わりたいという人に向いています

CAREER PATH

	20歳代		30歳代前半～		30歳代中盤～		
キャリア	新入社員		実務職層		中間管理職層		上級管理職層～
社内(部門内)の位置づけ	係員	係員	主任		本社・本支店部門: 副課長→課長(担当課長)→副部長 工事事務所: 事務長→副所長→ 所長(事務センター)		本社・本支店部門: 部長(担当部長)、統括部長、 副支店長等 工事事務所: 所長(事務センター)
配属店	本社・本支店(国内で業務)				本社・本支店(国内で業務)／海外		
配属先	ジョブローテーション(入社から7～10年間、国内で3部門を経験)				ジョブローテーション後は、人物適性・キャリア育成等を踏まえ人材配置します		
	[1部署目] ●本社・本支店 における各部門 人生初の 転勤になることも… 管理部門(総務、人事、財務、経理等) 営業支援部門、不動産(開発)部門、生産支援部門、新領域等 ●本社・本支店 における各部門 ●工事事務所 (現場事務) ●本社・本支店に おける各部門 ●本社・本支店・海外 における各部門 ●工事事務所 (現場事務) ●本社・本支店・海外 における各部門				[4部署目以降] ●工事事務所(現場事務) ●本社・本支店・海外における各部門 30歳代前半に海外駐在の可能性も… ジョブローテーションが終わった30歳代前半で初めて営業になったり… 管理部門(総務、人事、財務、経理等) 営業部門、営業支援部門、不動産(開発)部門、生産支援部門、新領域等		
奨励資格等	●建設業経理士、宅地建物取引士 等						
職種別研修 業務別研修 共通研修	●新入社員研修 (2週間程度) ●事務基礎Ⅰ 研修		●事務基礎Ⅱ研修 ●事務基礎Ⅲ研修		実務職層Ⅰ→実務職層Ⅱ→中間管理職層Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→上級管理職層		

PICK UP!

タイ・バンコック都心部で、
当社グループの不動産開発プロジェクトを推進



プロジェクト担当:
井上(写真左)
高谷(写真右)



アジア諸国では経済成長に伴い不動産ニーズが高まっています。とりわけタイでは、首都バンコック都心部を中心に賃貸オフィス需要が堅調に伸びている一方、大規模オフィスビルの供給は不足している状況です。その中で大林組のグループ会社であるタイ大林ではバンコックの都心部に賃貸オフィスビルを建設し、賃貸事業を行う計画を進めています。当該ビルは地上29階建て、延べ床面積約85000㎡、2021年末の完成を予定。完成すれば大林グループが単独保有する賃貸ビルとしては、国内外を通じて最大規模を誇ります。このプロジェクトでは、大林組の開発部門から事務職社員を現地に派遣し、タイ大林の社員とともに用地選定・土地所有者との交渉、プロジェクトの企画・立案を行い、今後はテナント誘致などを行っていきます。言葉の壁はもちろん、法制度や文化、風土が異なるなかでプロジェクトを動かしていくことは並大抵のことではありませんが、これまで国内で身につけた経験や知識を総動員し、プロジェクトの成功を目指し、取り組んでいます。



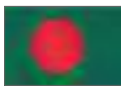
イオンモール ロンビエン

 施設用途：商業施設
竣工：2015/10
所在：ベトナム

イオンモールのベトナム進出1号店、2号店をホーチミンエリアにおいてグループ会社の大林ベトナムで施工したの続き、ハノイエリアで第3号店となる「ロンビエン店」を建設した。



カチプール・メグナ・グムティ第2橋建設工事及び既存橋改修事業

 施設用途：橋
竣工：2020/1
所在：バングラデシュ

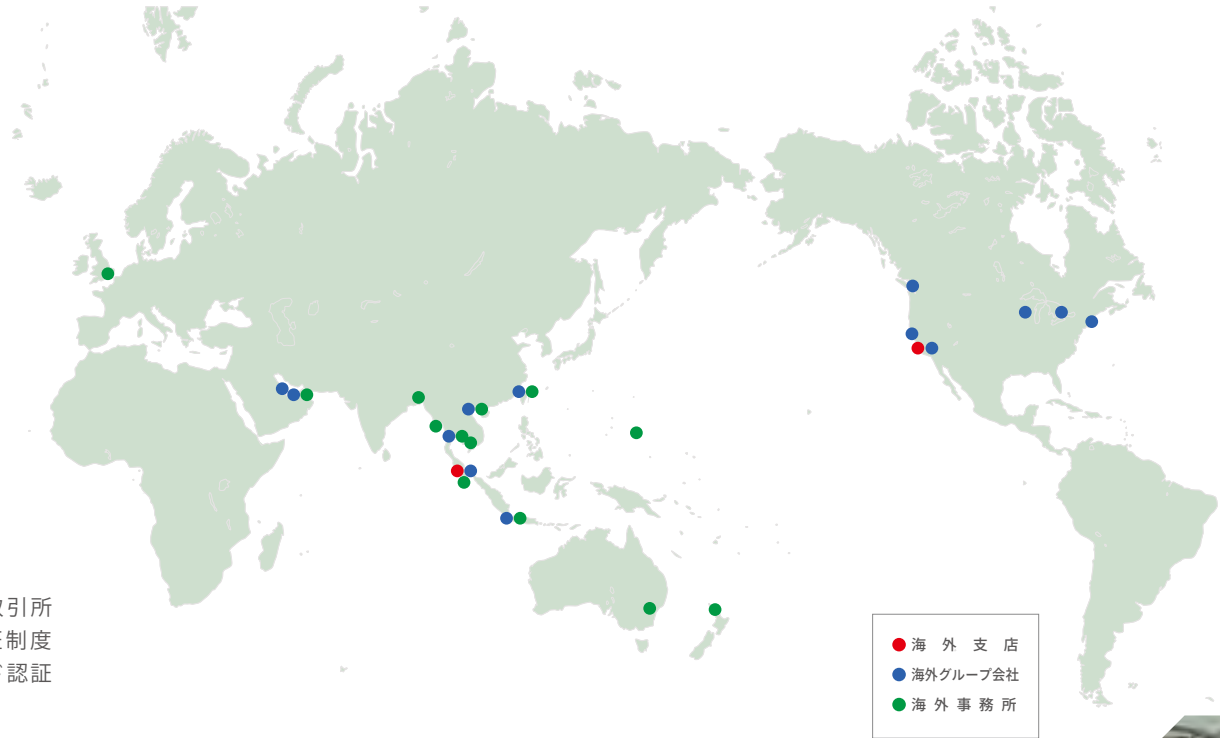
当社が1970～90年代に施工した既存3橋の改修工事と、並行する第2橋の新設工事。首都ダッカと第2の都市チッタゴンを結ぶ国道1号線上にあり、工事を通して交通インフラの改善を図り、経済活性化に寄与する。



タイ証券取引所

 施設用途：オフィスビル
竣工：2015/9
所在：タイ

タイの資本市場の中心となる証券取引所を新築。世界的な建物環境性能認証制度であるLEED（新築）においてゴールド認証を取得した。



I-70 ツイントンネル

 施設用途：トンネル
竣工：2015/10
所在：アメリカ

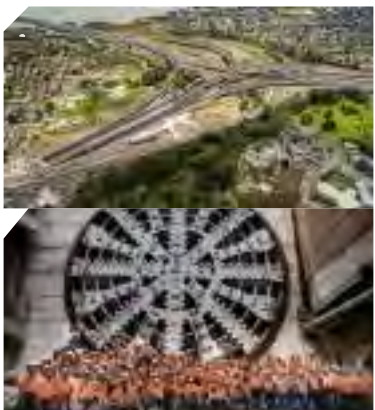
当社とグループ会社のクレマー社が共同施工。権威のあるENR社「Best of the Best Projects」賞に選出され、米国内で高い評価を得ている。



ソイジョイ新工場

 施設用途：生産施設
竣工：2018/4
所在：インドネシア

発注者の強い意向である「見せる工場」を念頭に、工場内で製造する商品をイメージした当社設計案件。営業から施工まで、すべて現地の所長がリーダーシップをとって完成させた。ローカル化を目指す現地法人の模範プロジェクトである。



ウォータービューコネクショントンネル及びグレートノースロードインターチェンジ

 施設用途：道路・トンネル
竣工：2018/3
所在：ニュージーランド

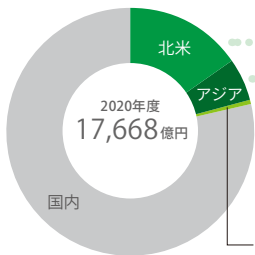
ニュージーランド最大の都市オークランドで高速道路を施工。同国最大の交通インフラプロジェクトで、シールド掘削外径14.5mは南半球最大。日本ではなじみの薄いアライアンス契約※を採用され、成果をあげた。

※ 発注者・受注者双方がひとつの組織を形成し、公平に発言権を保持しながらプロジェクトの工期や工費の目標を定め、リスクにおいても共同負担する契約方式

地域別売上高構成比

海外合計（売上高 / 売上高比率）

3,775 億円
21.4 %



北米
2,700 億円 15.3 %
アジア
1,005 億円 5.7 %
その他
69 億円 0.4 %

海外支店
2 カ所

海外事務所
13 カ所

海外グループ会社
47 社

海外勤務者
205 人
※2021年3月末時点

※所属部署、勤務地は、取材当時のものです。

Overseas Staff



櫻井 雄太

Yuta Sakurai



所属部署：開発事業本部 欧州事務所
職種：設備職
入社：2011年
勤務地：イギリス



石原 遼

Ryo Ishihara



所属部署：アジア支店 ナムニアップ工事事務所
職種：土木職
入社：2012年
勤務地：ラオス



舟岡 徳朗

Tokuro Funaoka



所属部署：大林シンガポール（出向）
職種：建築職
入社：2005年
勤務地：シンガポール



市橋 佑

Yu Ichihashi



所属部署：北米支店 企画管理部 総務課
職種：事務職
入社：2006年
勤務地：アメリカ

現在はロンドンで保存指定建造物の改修工事に携わっています。主な業務内容は、施工会社との変更契約、設計会社やマネジメント会社との打ち合わせ、各種検査への立ち会いなどです。価値観や働き方の異なる土地で現地の人とともにものづくりを行うことは大変ですが、お互いに分かり合い、前進していく手応えが得られた時はうれしく思います。たまにバブでお酒を片手に談笑する時間も楽しみのひとつです。

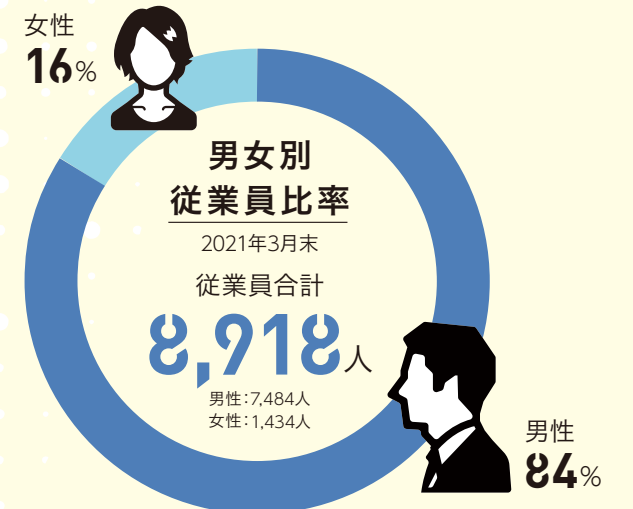
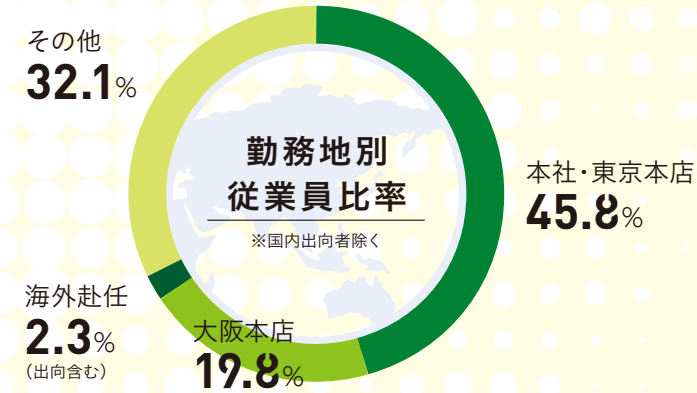
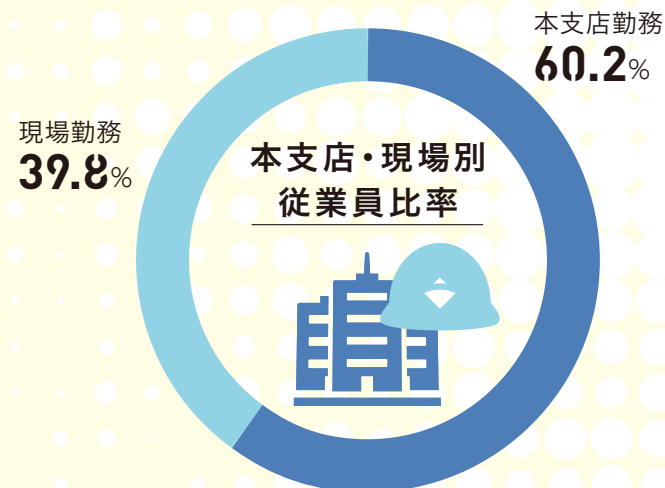
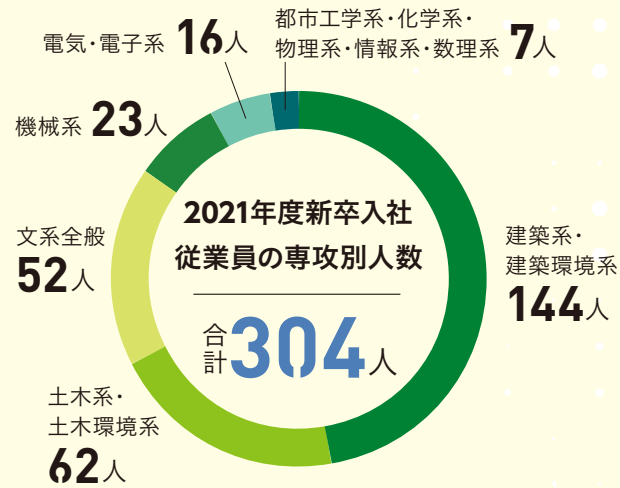
現在はダムと水力発電所の建設工事における、洪水吐や高欄などの構築を担当しています。海外で働く魅力のひとつは、若手のうちから現地スタッフを部下にもち、マネジメント能力が養える点です。また当工事は竣工後、発注者が一定期間運用したのち、設備一式をラオス政府へ無償で譲渡します。こうした開発途上国の経済援助に携われることは現地で働く一番の醍醐味だと実感しています。

シンガポールで鳥類の動物園の現場で建築工事長を務めています。私のように海外現場での勤務が初めての社員でも大規模工事の施工管理に挑戦する機会が得られるのは、大林組ならではの魅力だと思います。日本にいる時は自分がスキルアップすることに夢中でしたが、今では自分が身につけた技術を一緒に働くスタッフと共有できることに大きなやりがいを感じています。

私の仕事はグループ会社であるクレマー社、Jレポーツ大林社、JSビルダーズ社の受注・売上・損益管理のほか、直轄土木事業における工事受注時の契約内容審査、入札案件の資料作成、売上・損益管理、駐在員のサポート業務などです。海外勤務では求められる知識やスキルが幅広く、大変なこともありますが、北米事業全体を理解しながら会社の経営に影響のある仕事ができることにやりがいを感じています。

大林組ってどんな会社？
そんな疑問に答えるため、従業員比率や事業規模、女性の活躍など
さまざまな角度からその魅力を紹介します。

データで見るOBAYASHI



従業員平均年齢

2021年3月末
42.6歳

男性42.5歳、女性43.0歳

投資計画

建設技術の研究開発、
再生可能エネルギー事業、M&Aなど

4,000億円

※2017年度から5年間

再生可能エネルギー発電事業

発電所保有数

30カ所

年間発電量

2020年度

約**68,727**世帯分

※世帯分の消費電力に換算した場合

保養所の数

契約リゾート施設含む

国内 **30**カ所

技術職に占める女性比率

2021年3月末

9.8%

※2024年までに
10%程度へ(目標)

建設業で活躍する
女性の愛称・ロゴマークです

役職者に占める女性比率

2021年3月末

9.3%

※業界トップ水準

女性の育児休職取得率

2020年度

100%

育児休職からの復職率

2020年度

100%

えるぼし認定

女性活躍推進法に基づく厚生労働
大臣認定「えるぼし」二段階目(2つ
星)を取得しました。

連結売上高

2021年度

17,668億円

※7期連続業界トップ

営業利益

2021年度

1,231億円

賃貸不動産の面積

約**39**万m²

※東京ドーム8.3個分

会社概要

社名	株式会社大林組 (OBAYASHI CORPORATION)
創業	1892年1月
設立	1936年12月
取締役社長	運輸 賢治
本社	東京都港区港南2丁目15番2号
資本金	577.52億円
事業内容	国内外建設工事、地域開発・都市開発・ その他建設に関する事業、 及びこれらに関するエンジニアリング・マネージメント・ コンサルティング業務の受託、不動産事業ほか
主要国内拠点	本社(東京都港区)、札幌支店、東北支店(仙台市)、 東京本店(東京都港区)、関東支店(さいたま市)、 横浜支店、北陸支店(新潟市)、名古屋支店、京都支店、 大阪本店、神戸支店、広島支店、四国支店(高松市)、 九州支店(福岡市)、技術研究所(東京都清瀬市)

OBAYASHI満足度調査

今の会社に満足していますか？

大林組 **61.2**pt

標準値 **11.9**pt

標準値より
+49.3pt

職場の雰囲気は良いですか？

大林組 **64.4**pt

標準値 **39.7**pt

標準値より
+24.7pt

上司はあなたの意見やアイデアを
尊重してくれますか？

大林組 **67.2**pt

標準値 **45.6**pt

標準値より
+21.6pt

当社労働組合による組合員への調査(2018年7月実施、回答者6,062名、回答率約90%)
40pt以上は「極めて高い」とされるDI値にて表示
標準値:junior(株) 調査による135労組、24万人の平均値(2018年4月現在)

ものづくりの先に、 ものがたりがある。

私たちはこれまでにさまざまなものをつくってきました。

そのうちのひとつが、阪神甲子園球場です。

心に残る名勝負の数々は、この場所で生まれました。

大林組はものづくりの会社ですが、

ものを完成させることだけが

私たちの仕事ではありません。

街のシンボルやインフラとなって、

人々の暮らしや営みを支えながら

そこで生まれる"ものがたり"もつくっています。

私たちはこれから先も、ずっと色褪せることなく、

輝き続ける“ものづくり”を目指していきます。



阪神甲子園球場は
大林組が1924年に建設。
実績についてはこちらから

